

Wasteful grace is moderate and bring up environment and a human being

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

も う

# M・O・H通信

M·O·H communication

特集:挑戦「一歩前へ」

22号

2008

Winter





contents

目次

特集「挑戦」—— 一步前へ

M・O・H対談 消費の再革命は、時間革命がキーワード  
未来の暮らしをつくる 成瀬 龍夫 & 森建司……5

M・O・Hレポート1  
もったいない滋賀の実現にむけて—— 内藤 正明……13

M・O・Hレポート2 小学生も環境に配慮した服が着たい！  
「体操服——いってらっしゃい、おかえりなさい」 岡部 達平……27

M・O・Hレポート3 一杯のコーヒーから地球環境を考えよう  
「小鳥のさえずりで育つ「コーヒー」」 西郡 与志延 & 勝又 貴司……33

M・O・Hレポート4 “ミスターびわ湖”川本勇さんにロングインタビュー  
滋賀県発のメディアに託して—— 川本 勇……41

かつてのルール炭鉱町は今 畑 裕子……49  
シンガポールの安定水源確保に向けた取組み 井上 昌幸……51

「秋の夜長を楽しむタベ」開催しました。……53  
シヨート・シヨート  
ふれあい 第十二回『町内会長』 中井一三雄……58

「創造環境が未来をデザインする」  
環人会ツアーVol.4「高島ツアー」……59

表紙イラスト：堀和樹。  
近江兄弟社高校2年。野  
洲在住。「マンガピック  
全日本マンガ選手権」  
キャラクター高校の部  
最優秀賞受賞



野洲川と三上山

〈商家の家訓の話 第七回〉  
近江大店の後継者の養成

末永 國紀……………63

「りんべえに会わないかい?」(漫画)  
オノ ミユキ……………65

「緑陰の恵み」 畑 裕子……………69

「ひごぼりだじの「もったいないばあさん」  
今関 信子……………71

講演日記 ……………73

MOHニュース ……………74

「湖北時雨」 三山 元映……………75

本の紹介 ……………76

MOH通信概要 ……………77

読者の声 ……………78

MOH  
せんりゅう

ありがとう

自然の恵みに、心から

野坂 玲子 (長浜)



「M・O・H」のマーク=牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★MOH通信の役割★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためMOH通信は情報を発信し交流を続けます

- M** → **もったいない** **循環** 他生命を奪って得たものを使わせて頂く
- O** → **おかげさま** **共生** 人は一人では生きられない、環境によって生かされている
- H** → **ほどほどに** **抑制** 欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために

この十月一日未明に発生した、大阪市浪速区の個室ビデオ店放火事件は、十五名もの死者を出したということもあるが、別の意味で社会を震撼させた。被害者をはじめ個室ビデオ店に寝泊りしている人の多いことも、また加害者の中年の男性の背景も知るにつけ、現代社会の病理を象徴するショッキングな事件だった。

まだまだ世間には、このビデオ店のみならず、同類の店舗が多数存在するといわれている。これにホームレスも入れると、家族が離散し、家庭崩壊に直面している人々がいかに多いことか。これらの事象は福祉問題や、格差問題として政治的に取り上げなければならぬことは当然だが、その発端となる個人の内奥に秘められている根本的なものは一体何か。

われわれの先祖はもって貧しい中で

も、もって厳しい労働の中でも耐え忍んで生きてきた。家族を養うため身を粉にして働く両親の背中を見て、子どもたちは育った。大きくなったら自分たちが働いて少しでも親に楽をさせた、その思いがあった筈だ。また親も

## 「若者よ 故郷へ帰ろう」

森 建司

子どもや孫のために、いい田んぼや畑を残そうと休みも取らず働いた。こうして先祖から子孫に伝わる縦の家族関係から親孝行を学び、また、次世代に残す家系や家訓を引き継いできたのだ。そして今生きている家族も互いに助け

合い、自分を犠牲にしても家族の危急を救う家族愛があつて当然ではないのか。

今、われわれはまことに危険な精神的環境の中で生きている。社会全体をはじめ、家族も個人も経済の論理のただけで生きている。少しでも高い給料を取るために高学歴をとり、大企業に就職する。そして海外にまでいく。郷里に老親や家系や、古き訓えのすべてを残し、一人旅立つのだ。不幸にしてそのルートを外れ、下層に甘んじるといふ憂き目を見たものも故郷を捨てて、都会の孤独の中で破滅していく。

若者たちよ。君たちの故郷もそんなに捨てたものではない。親たちも決して誤った価値判断をしているのではない。君の居場所は、個室ビデオ店などではない筈だ。

親や先祖の待つ故郷へ帰りたまえ!!

## ■ 挑戦 — 「一歩前へ」

弊誌は13号(2006年8月号)から特集のテーマを設定しました。  
⑬持続可能な社会像→⑭共生→⑮危機意識→⑯滋賀の取組み→⑰地域→⑱九州→⑲滋賀の明日→⑳文化→㉑未来(沖縄)。  
そして今号22号は「挑戦」です。未来をめざすためには、今の挑戦が必要です。勇気を出して一歩前へ。皆さんへ感謝の心をこめて丑年にちなんだパワフルな表紙とともに、挑戦を続ける仲間をご紹介します。



●対談

## 成瀬 龍夫 vs 森 建司

滋賀大学 学長

循環型社会システム研究所 代表

〈挑戦「一歩前へ」— ① 〉

# 未来の暮らしをつくる

## 消費の再革命は “時間革命” がキーワード

戦後1950年代から始まった日本の消費革命一。大量生産・大量消費によってもたらされた消費の楽しみや、豊かさの実感は、日本の成長と発展そのものでした。しかし、現代の消費シーンは、それとはかけ離れた方向に向かいつつあるのではないのでしょうか。こうした現状に、経済学の視点から警鐘を鳴らす滋賀大学学長成瀬龍夫さんに、森代表がお話をうかがいました。

■滋賀大学 彦根キャンパス（経済学部）／彦根市馬場

■2008年9月5日

## ライフスタイルと経済学の ユニークな取り合わせ

**森** 本日は成瀬先生の著書「生活様式の経済理論」（御茶の水書房）をテキストに、講義を受けるようなつもりで参りました（笑）。先生は「ライフスタイルが研究のテーマ」だとおっしゃいますが、ライフスタイルと経済学の取り合わせは、非常にユニークですよ。しかもこの著書は、今から20年も前に書かれたのでしょうか？

**成瀬** ええ、この論文で博士の学位をとりました。なので、わざと難しく書いてあります（笑）。当時は、ライフスタイルを論じるなら、女子大の家政科に行けばどうだと言われもしましたから、学内（京都大学大学院）でも私は、異色の存在だったと思います。

**森** その頃はそうだったかもしれませんが、今、私たちのライフスタイルのあり方が、地球の持続性と大きく関わっています。ライフスタイルから経済を考えるという発想に、時代が追いついたような印象を受けます。

## 多様化する消費様式。 ”質の悪い発展”への警鐘

**成瀬** では、なるべくわかりやすくお話ししたいと思います。まず、「暮らし」や「生活」の意味は、経済学的には「消費」とそれを通じて、自分と家族の生命の「生産・再生産」を行うこと、になります。

**森** 再生産というのは、次の世代ということですね。

**成瀬** そうです。消費の対象は、財やサービスです。このことをもう少しシステマ的に捉えますと、私たち人間と消費のあいだには、家事労働だとか社会的サービス労働など、何らかの労働が介在します。こうした「消費労働」を紹介して、私たちが財やサービスなどの「生活手段」と、どのように結びつくかということを、消費様式、あるいは生活様式と呼ぶわけです。

**森** 私たちが、単にライフスタイルと言っているものですね。

**成瀬** ええ。研究者の立場からは、「ミゼロロジー（生活様式）」という言い方をす

る人も多いですね。どちらが正しいということはないのですが…。それで、この消費様式、生活様式というのは、実に多様化しています。

**森** 消費労働をなるべく省きたいという人もいれば、楽しみたいという人もいますしね。

**成瀬** 消費労働というのは、子育てや家族関係の調節、調理技術からあらゆる生活の術まで、いわゆる生活文化を担うものです。そして、消費財と呼ばれる生活手段も、文化的質が非常に高いんです。

**森** 文化的質ですか…。

**成瀬** 消費財に対して、いわゆる機械類等は生産財です。両者の違いは、例えば機械を選ぶときは、機能や価格で決めますよね。機械は文化というものを、基本的には持っていないんです。ところが衣食住に関わるものを選ぶ場合は、私たちの嗜好性や流行性など、あらゆる要素が関係します。これが文化的な質です。**森** なるほど。衣食住のスタイルで、その人の意識の高さがうかがえたりしますものね。



「質の悪い発展」は避けたい」成瀬学長

**成瀬** 消費を担う消費労働に、技術性や専門性、独創性など様々な特徴がある一方で、消費財そのものが、質的にどういうものであるかということが、私たちの暮らしに大きく関係しているんです。消費財をより多く消費すれば、生活水準が高くなるというような、単純なものではなくてきてきているんです。森 質というと、安からう悪かろう的な判断の他に、環境に与える影響だとか、たくさんの判断基準がありますよね。

**成瀬** 一概には難しいのですが、私たちの正常な生命活動に、良い影響を与えるかどうか、という判断で良いのではないかと思います。単に生活必需品かどうかという判断ではなくてきているんです。

**森** しかし豊かな社会では、そもそも正常な生命活動とは、どこまでをいうのか、それ自体がわかりにくくなっていますね。

**成瀬** そうですね。例えばアメリカの

消費スタイルを見ると、冷蔵庫などの普及とともに、缶詰や冷凍食品など、買い置きが増えます。中産階級の家庭は、食料詰めのわけです。そこから食べ過ぎや、カロリーの取り過ぎが始まり、食生活では1920年代に、ほぼ人間の必要性を遥かに超える段階に、消費水準が上がっていったと言われています。

**森** 日本はそこから数十年遅れてですが、同じ道を歩んでますね。

**成瀬** 結局、大量生産・大量消費・大量廃棄の時代が日本にも到来し、非常に良い面もあったのですが、しかし、消費のための労働が衰退する、質の悪い消費財が氾濫するなど、消費様式はマルデベロップメント (maldevelopment)、オーバーデベロップメント (overdevelopment) という言い方ができると思います。デベロップメントは発達や発展、マルは「悪い」、オーバーは「過度の」という意味です。人間としての生命的欲求基準に、適正にマッチしたものはなく、それを超えたり、はずれたりしている。質の悪い発展 ですね。これは、経済成長についても言えることです。



森 例えば情報一つをとってみても、マルやオーバーの状態だと言えますか。  
成瀬 ええ。パソコンが生活必需品になりつつあるのは間違いありません。しかし、パソコン上で提供される膨大なウェブについて、すべてが必要かという、そうではありませんし、明らかに悪いと言えるものがあります。やはり、必要分に応じていくような、内容のコントロールが必要になってくるんです。

### 生活様式と深く結びつく 人間と社会の病理

森 消費の側だけでなく、生産する側にもオーバーということが言えますよね。  
成瀬 すでに1930年代、アメリカの批評家ルイス・マンフォードが、『技術と文明』という著書の中で、「大量消費により、人間の必要水準を遥かに超えるような事態に、我々が晒されるようになった。従って、消費を正常化しなければならぬ。そのためには、合理的な生産を再構築しなければならない。」

と言っているんです。それから、同じくアメリカの経済学者ジョン・ケネス・ガルブレイスは、戦後の50年代に、「今や依存効果により、消費者の欲求は、完全に企業の宣伝にコントロールされるようになってしまった。その結果、個人消費のみが発達して、社会のために必要な消費、特に公共的なサービスが立ち遅れてしまった」と、ソーシヤル・アンバランス論を展開しています。  
森 そういう批判者もいたのですね。

成瀬 そうです。しかし、消費と生産のマルでオーバーな状態をどのように正常化していくかという試みも出てきました。70年代には国連による国際会議も開かれ、代替的な生活様式を求めようとする様々な社会運動に発展しています。M・O・Hの運動も、その一つでしょう。  
森 おっしゃるとおり、代替的な生活様式への移行を啓発していきたいんですよ。



「代替的な生活様式への移行を」森代表

**成瀬** そうした国際会議でも、ストレスを含め、今の人間の病理や、社会の病理、現代の病理現象というのは、圧倒的に現代の生活様式と結びついていると言われています。生活様式を変えない限り、人間の精神的、肉体的負荷や、あるいは環境的負荷は軽減されない。しかし、どう解決するかとなると、非常に難しいことなんです。

**森** それは私も痛感しています。

**成瀬** いずれにせよ、消費を正していくことが、生産を正していくことになるのかと思います。ですから、消費の地位というものを、マーケティング戦略でコントロールされるのではなく、マーケットをリードするようなポジションにまで上げることはできないだろうかと、そういうことを考えているわけです。

**森** これまでとは正反対の方向へ、消費者を導くわけですね。

**成瀬** 最近になって少しずつですが、その可能性が現れつつあると言われ出しました。例えば、ウェブで消費者のニーズを直接にキャッチして、ニーズ

に見合った生産活動を行うとかですね。**森** それこそ合理的な生産ですね。そういう傾向が、どんどん活発化すればいいんですよ。

### 代替的な生活様式への変化の鍵 「ワーク・ライフ・バランス」

**森** 先生はアメリカ的な生活様式の特徴と問題として、大量生産・大量消費・大量廃棄の構造とともに、「生活手段の全面的な商品化」ということや、「高価な家計」と主婦の賃労働者化“ということをあげておられますね。高価な家計というのは、家計の規模が、どんどん大きくなってきているということでしょうか。

**成瀬** 自動車や家電製品、家具など耐久消費財のローン購入があたり前になっています。ローンを支払うため、追加的収入を確保するためにワーキング・マザーが増大して、稼いだお金をまた耐久消費財に費やすという悪循環に陥っているんです。

**森** 家計の規模が大きくなったから、我が家はお金持ちになったんだと、喜んでる場合じゃないですね。

**成瀬** そのとおりです。その悪循環を断ち切るために、ワーク・ライフ・バランスを実現させようという課題が、今、社会に持ち上がっています。今後、消費の再革命がなされるためには、あわせて「時間革命」が必要だと思います。こうしたことが、代替的な生活様式の実現を可能にするんです。

**森** ワーク・ライフ・バランスは「仕事と生活の調和」と訳されますが、どうも私には漠然としているんです。

**成瀬** この考え方は、80年代のアメリカの企業から生まれました。先ほどのワーキング・マザーの増大は、子育てができないという問題を引き起こし、その結果、結局は女性の職場定着率の悪化につながった。そこで、女性の職場定着を図るために、企業自身が保育施設を設けるとか、保育手当を支給するなどの努力が必要になったのですが、その傾向がさらに本格化して、従業員的生活と労働とを均衡がとれたものに

しようと、アメリカのビッグ・ビジネスがいくつかの施策モデルを生み出しました。それにより、かえって企業の生産性が安定的に向上することがわかってきて、それでビジネス社会に一気に広まっていきました。しかし日本の場合は、まだまだ行政指導型で企業がついてこないのが現状です。

## 消費の再革命と時間革命で未来の暮らしを創る

森 なるほど。では、消費の再革命というと、どういうことになるのでしょうか？

成瀬 金銭で商品を買うという生活領域が広がり過ぎています。これをもっと、合理的な範囲に制限していくことが、消費の再革命です。地域通貨のように金銭がかからない、助け合い的な、公共的協同的消費を拡大していくということですね。

森 M・O・Hが提唱する「もったいない市場」は、これに該当しますね。

成瀬 そういう協同的消費とともに、

地産地消やスローフードといったことも、キーワードになります。その土地に見合った、その土地の資源を使った、その土地の伝統的な文化や技術で、生活様式を再構築していく。それにはやはり生活の質が上がったと、確認できるものがほしいですね。スローフードは、その点まさに本物志向なわけですから。

森 スローフードを消費することで、家事も変わるでしょうね。

成瀬 暮らしの技術や文化の再発見にもつながります。簡素で質素、かつ本物志向のライフスタイルですね。

森 それで先生は、消費の再革命のキーとなるのが、「時間革命」であるというお考えですね。

成瀬 そうです。消費の正常化の条件であり、未来の暮らしをつくるためのキーワードでもあるかと思っています。時間革命ということ很简单に言えば、私たちの社会的文化的な生活を保障するような労働時間の短縮ですとか、余暇生活のあり方などです。

森 労働時間の短縮で、生活がおびや

かされることはない。

成瀬 ええ。残業する必要があるものわかりますが、日本の場合はお金のために残業するパターンが繰り返されていきます。しかし、これをやればやるほど、「働きすぎ」のサイクルにはまっていく。ですから、残業の対価を金銭ではなく、休日でもらうとか。そういう時間保障をもっと採用すべきではないでしょうか。時間と金銭の位置関係を、今の状態から変えなくてはいけません。

森 なるほど。今は圧倒的に金銭が上ですものね。

成瀬 日本は高度経済成長のもと、とにかくアメリカ的な消費生活は素晴らしいと、アメリカ以上の消費革命を起こしました。ところが、生活と労働のバランスをとるような、そういう改革はなされませんでした。ですから、わずか数日間の余暇でも家族で走り回って、お金を使い、体力を使いますよね。

森 まったく余暇がないんですよ(笑)。

成瀬 ちょっとワーク・ライフ・バランスという国際的な動向があるのです



彦根城を望む緑豊かな滋賀大学の学び舎

から、過去に見過ごした「時間革命」というものを、これからやっていくべきだと思います。

**森** そうですよ。私の場合は脳梗塞をわずらったことで、自分の中に「時間革命」が起きたんです。でも、これを皆さんにおすすめるわけにはいきませんから（笑）。

**成瀬** 何かきっかけが必要かもしれませんね。

**森** 定年退職もその一つですよ。我々の世代から消費の再革命や時間革命を起こしていくというのも、有効的ですよ？

**成瀬** もちろんです。

**森** 自分のライフスタイルを改めて見つめなおしたいと、そう考えさせられました。本日はどうもありがとうございました。



両雄ガッチリと握手



# 成瀬龍夫

●なるせ たつお 1944年旧満州国生まれ。1967年大阪外国語大学中国語科卒業。1973年京都大学大学院経済研究科博士課程修了。京都府立大学女子短期大学部助教授を経て、1988年滋賀大学経済学部教授。2004年同大学学長に就任。主な著書／『くらしの公共性と地方自治』1994年、『国民負担のはなし』2000年（ともに自治体研究社）など。

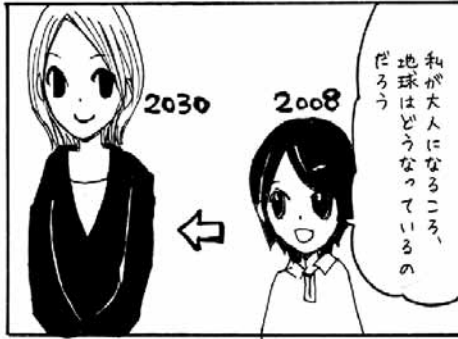
●国立大学法人 滋賀大学  
<http://www.shiga-u.ac.jp>

勇気凛々

いの壁を打ち破れ

# 森建司

●もりけんじ 1936年滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会副会長など。著書／「吃音はなむさ」遊タイム出版、「循環型社会入門」新風舎、「中小企業にしかできない」持続可能型社会の企業経営」サンライズ出版。



# もったいない滋賀の実現にむけて

監修/内藤 正明 (マンガ/中田 エリカ)

## 「持続可能滋賀をつくるための12の対策例」

これまで滋賀の持続可能社会の姿を本誌で紹介してきましたが、今回はそれを実現するための提案をして見たいと思います。個人の身近な行動では限界があるので、社会全体として進める対策例を12項目作ってみました。今後の政策の参考になれば幸いです。

# おいしい琵琶湖を飲もう！

# 1



- 琵琶湖の水を飲む
- 現代風に川端(かばた)を復活
- 素焼の水瓶の活用(気化熱で冷える!)



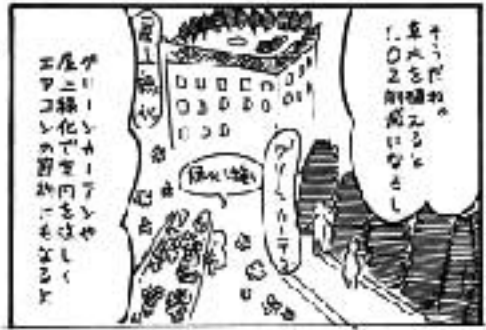
## ■そのために行政は…

- 知事や県庁が率先して「琵琶湖を飲む」キャンペーン
- 身近なところに水が流れるまちづくり

## ■そうすれば…

- 琵琶湖が身近で、大切な存在に
- くらしとつながった「水の循環」が復活

# みどりの中のまち 2



- ヒートアイランドを防止
- 都市そのものが憩い、癒し、エコツーリズムの場に
- くらしの中にも健全な生態系と水の循環が

## ■そうすれば…

- 技術開発に補助金を
- 住民の力で街中にみどりを(NPOなどの指定管理)
- 学校、公共施設などから「みどりの中のまちづくり」をスタート

## ■そのために行政は…

- “都市の中に緑を”から“緑の中に都市を”へ
- 路地や駐車場は水はけを良く
- 屋上や壁にも緑がいつぱい
- 家の周りには涼しい風、暖かい日差しを運ぶ植えこみを
- 空地や駐車場にはできる限り草木を植える





# エコな家、エコなくらし 3



③ エコな家、エコなくらし

エコな暮らし

エコな暮らし

例えば

木質系住宅

木質系住宅

木質系住宅

木質系住宅

木質系住宅

木質系住宅

木質系住宅

木質系住宅

木質系住宅

木質系住宅



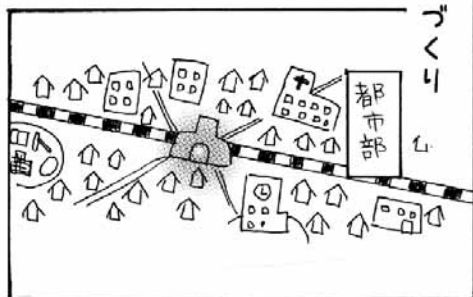
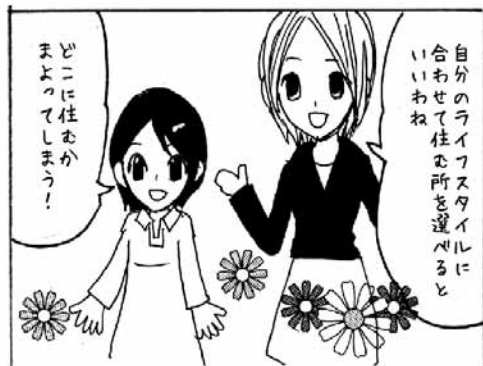
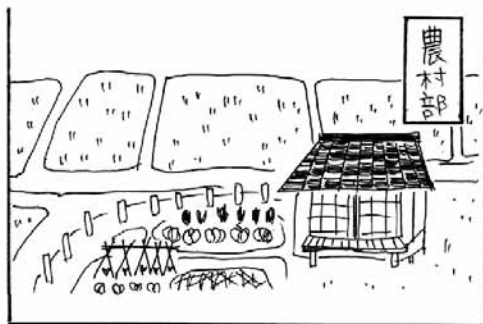
- そうすれば…**
- 年間15万5千トンの二酸化炭素削減効果\*
  - 地元の林業、地元の工務店に新たなビジネスチャンスが
  - みんなで省エネ型のライフスタイルを実現
  - 家族や地域の絆が再生し、教育や福祉、防犯への意識も高まる

- そのために行政は…**
- 自然の力を活かした新たなエコ住宅の基準を条例に
  - ローン金利の優遇や助成、補助
  - エコな家には建築許可条件を優遇

- 消費するエネルギーより生産するエネルギーの方が多い「エネルギーポジティブ」な家
- 地元の木を使って建てた家
- 自然の恵みを活かす家
- みんなで楽しく集まって暮らす家（多世代家族、コレクティブハウス、グループホームなど）
- 協力し合って「エコ」にくらせる団地づくり、コミュニティづくり

# 地球にやさしいまちづくり

# 4



- コンパクトにまとまった市街地と、自立した暮らしの農村
- 町と町とを結ぶのは地球にやさしい公共交通



## ■そのために行政は…

- メリハリのきいた都市計画
- 中心市街地に住む人への補助金の活用、□
- イン金利の優遇支援
- 県内をつなぐ、気軽に乗って便利な公共交通の普及

## ■そうすれば…

- 年間26万6千トンの二酸化炭素削減効果\*
- インフラにかかる費用が大幅に減少
- 移動の時間、輸送の時間が大幅に減少

# 身近な自然からエネルギーを 5

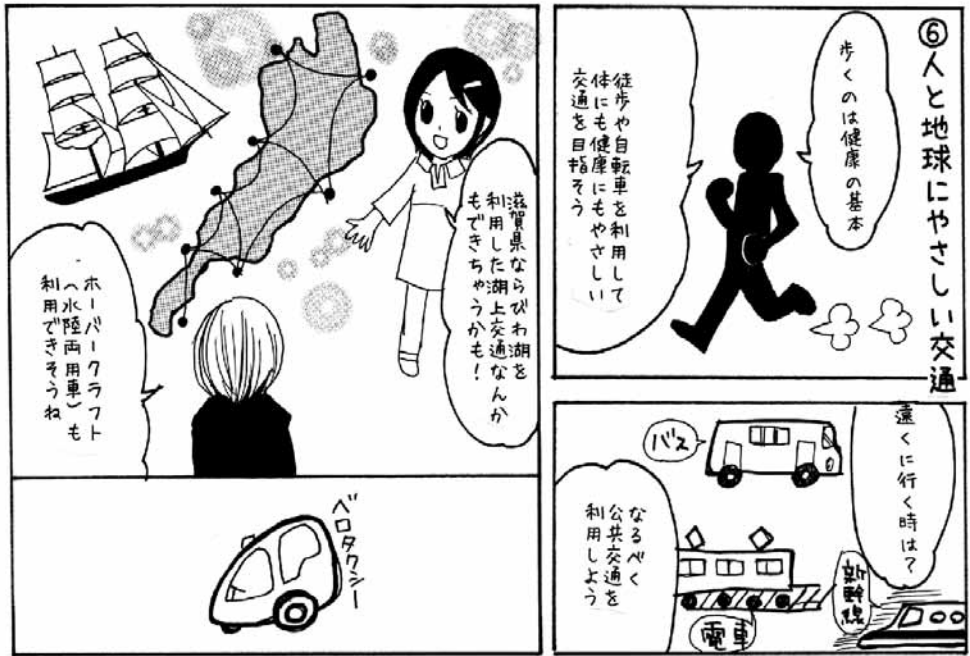


- バイオマスを使った暖房や発電
  - 身近な水路で水力発電、水車を回して製材、脱穀
  - 地域でのマイクロ風力発電の普及
  - 非電化製品の活用
- そのために行政は…
- 公共施設からバイオマスボイラーやストーブを設置
  - FIT（固定価格買い取り）制度
  - 県内のすぐれた事例を紹介し、各地に拡大（ベンチマーキング）
- そうすれば…
- 年間61万5千トンの二酸化炭素削減効果\*
  - 県民が参加できる事業が増え、地域も活性化
  - 自立したエネルギーが得られ、いざという時でも安心・安全



# 人と地球にやさしい交通

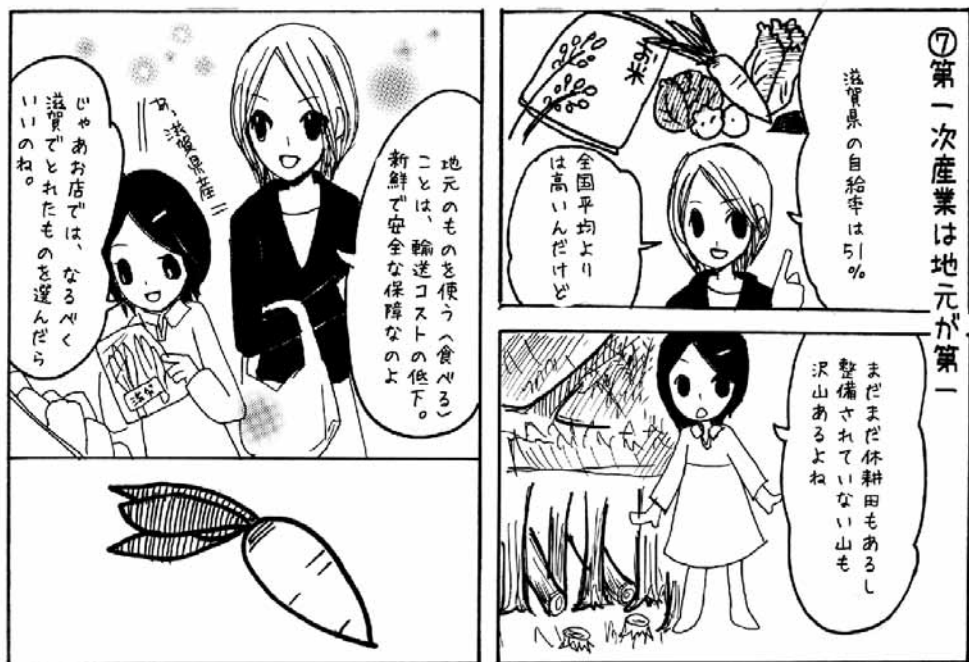
# 6



- 公共交通が充実した、車がなくても快適な暮らし
  - 地域共有電源システム(商用電力+地域での発電電力)を新電気バスや新路面電車の電源に
  - 琵琶湖を船が行き交うように
  - 新しいタイプの自転車が次々と登場し、船や電車にも持ち込めるように
- そのために行政は…
- 市街中心地では自家用車の利用を制限
  - "トローリーバス"や"LRV"をモデル地区から実施(大津駅〜浜大津、県内の大学〜最寄駅など)
  - 自転車専用道路や公共交通を優先するシステムなどの整備
  - 自転車や公共交通利用での通勤、通学にエコポイントを
- ▶
- そうすれば…
- 年間5000万5千トンの二酸化炭素削減効果\*
  - 交通事故が減少し、歩行者に優しいまちに
  - 車が減って街の空気がきれいになる
  - のんびり移動で身近な街のいろんなことを再発見

# 第一次産業は地元が第一

# 7



- 地産地消のくらし（地元で生まれたものを、地元で消費）
- 木造住宅は近くの山の木を使って建てる
- 地元の農家と家庭をつなぐ安心・安全のネットワーク
- 路近江の伝統野菜、近江牛、琵琶湖の水産物などの県産品がブランドに

## ■そのために行政は…

- 学校給食、地域給食サービス業への「滋賀県産」の利用をあと押し
- 地元の農家や漁師が主役の「産直市場」を開催（各地の産物を船で運び込むなどの演出で、県外からも人を呼び込む）
- 滋賀県産の木材を利用した家は金利を優遇

## ■そうすれば…

- 年間5万1千トンの二酸化炭素削減効果\*
- 農林水産業の再生
- 一次産業を通じた、自然の力を借りた健全な循環
- 地域雇用の創出、地域経済の再生
- 顔の見えるコミュニケーション（生産・流通）で安心・安全な食生活

# エコテク 売れてく 広がってく

# 8



## ■そうすれば...

- 空洞化した土地の再活用
- 地域経済の活性化と地域雇用の創出

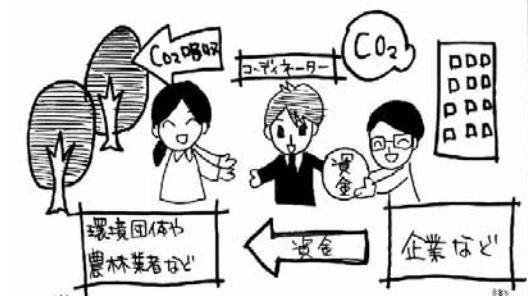
## ■そのために行政は...

- 県内で活用可能なエコテクを産み出す企業は税制などを優遇
- 適正技術を普及するための法的な課題をクリアした「適正技術特区」を指定

- 環境に優しく、かつ県内の住民や事業者の手で活用できる「適正技術」を産み出す工業団地
- 県内の中小企業が中心となり、適正技術を通じて地元での連携を強めてゆく

# 炭素も地域で循環する

# 9



カーボンオフセットとは、CO<sub>2</sub>を出す側（企業など）がCO<sub>2</sub>を吸収する取り組みをしている人（環境団体・農/林業）に資金等を支払う仕組みです。コーディネーターなど、新しい雇用も生まれます。



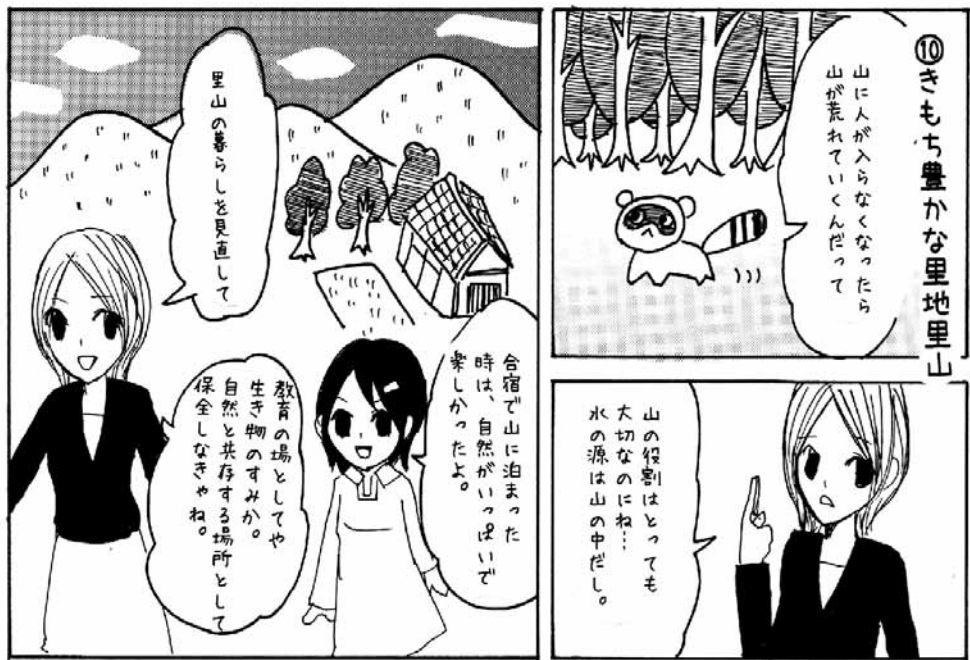
## ■そのために行政は…

- ローカルルールによるカーボンオフセットの制度化
- 審査・認証機関の信頼性を保証
- 監査と結果の公表
- 全員参加に向け、排出量に見合う資金提供の仕組みをつくる

## ■そうすれば…

- 環境ビジネスが活性化し地域に新しい仕事が生まれる
- 省エネ技術、自然エネルギー技術の開発がより活発に
- 省エネ活動のインセンティブが生まれCO<sub>2</sub>排出の総量削減が進む
- 目に見える炭素循環が、消費・生産活動に変化を生み出す

# きもち豊かな里地里山 10



- 里地里山と人々のかかわりを取りもどす
- 自然のめぐみに囲まれた自給自足の暮らし
- たくさんの生きもののみか



## ■そのために行政は...

- 地元木材流通システムの確立
- 県産材の流通の拡大
- 県産材を使った木造住宅のつくり手を支援
- 公共施設等での県産材の利用促進

## ■そうすれば...

- 年間53万5千トンの二酸化炭素削減効果\*
- 里地里山は心の豊かさを育む場、教育や福祉、観光の場にも



# 地域の“人”と“もの”が行き交う場所 11



## ■そのために行政は…

- 工口特区の指定
- 優遇税制、補助金の活用
- ローカルマネーやエコマネーをグリーンファンドの創設

## ■そうすれば…

- 地元経済の活性化
- 新産業の創出
- 情報交流の場を通して人と人のつながりが再生

- 地元で作られた商品が並ぶ、地産地消の場
- もったいないが実践される場
- 人々が言葉を交わし、コミュニケーションを築ける場
- エコな情報で工口仲間がつながる場



©滋賀県中小企業同友会

# エコ社会のモデルづくり 12



- まず、作って見せるのが一番！  
石油の消費を現在の半分（二酸化炭素排出量を1人当たり年間5トン以下）にしなから、人々が豊かだと感じるような
  - 「都市型モデル」⇨中心市街地などを対象として、都市のさまざまな機能をコンパクトに集中させ、そこに集まった人々が効率的に暮らすことのできるモデル地域
  - 「農山村型モデル」⇨農村・山村部を対象として、エネルギーや食材のほとんどを自分たちで手に入れ、不要となったものは身近な自然に帰すことのできる自給自足型の地域
  - 「都市農村連携型モデル」⇨近郊都市と農村を対象として、都市と農山村の両方が連携したものの流れを築くことで、「循環型社会」のモデルとなる地域
  - 「部分モデル」⇨エネルギー、循環、ライフスタイルなど個々の側面から持続可能性を追求したモデルとなる地域
- を築く。どのモデルも住民が企画から参加することで、自分たちが住む地域の「こうあってほしい」というイメージを共有し、形にしてゆく。

### ■そのために行政は…

- 趣旨に賛同して手を挙げる自治体をモデル地域に認定する
- 「持続可能な社会」の理念とそれを実現するためのノウハウを支援
- 「社会をつくるための法的な課題をクリアした」「地域特区」を指定
- 持続可能な地域社会の評価・認証制度を

### ■そうすれば…

- 持続可能な社会をどこよりも先取り！
- 滋賀から持続可能な社会の姿を世界に発信！！
- 人と自然と社会の豊かさが未来につながる滋賀へ！！！！

\*「持続可能な社会の実現に向けたシナリオ」での試算

©ハーツ環境デザイン



©大阪大学  
環境設計 情報学領域

無一物中無尽蔵

有花有月有樓台

内藤正明

●ないとう まさあき 1939年大阪府生まれ。1962年京都大学工学部卒業、1969年同工学博士、1974年 国立環境研究所主任研究官、1990年同統括研究部長、1995年京都大学工学部研究科教授、2002年同大学院地球環境学学長。

現職／佛教大学社会学部教授、琵琶湖環境科学研究所センター長、京都大学名誉教授、(NPO)循環共生社会システム研究所・代表理事、(NPO)KES環境機構・代表理事、他。

著書／「持続可能な社会システム」、「地球環境と科学技術」岩波講座など。

活動／持続可能な社会の理念と実現方法に向けた研究およびその実践活動。

# 「体操服！いつてらっしやい、おかえりなさい」



## 岡部 達平

写真家・エコディレクター

### 小学生も環境に配慮した服が 着たい！

京都市内の小学校で体操服のリサイクル活動に取り組む写真家岡部達平さん。どうして写真家が体操服のリサイクルを小学校で教えることになったのか、いったいどんな授業をしているのか、お話を聞きました

■ amagaeru photos / 京都市中京区

■ 2008年9月

## 華やかな広告写真の世界から、 廃材で作るピンホールカメラへ

大学生時代、華やかな広告写真の世界に憧れて、写真家伊藤敦友氏に弟子入り、修行していた岡部さん。

当時は、デジタルカメラがまだほとんど普及していなかった。そんな中、一枚の写真を撮るのに、たくさんフィルムが使い捨てられているのを目の当たりにする。

「何十本、何百本というフィルムの中から一枚だけいい写真を選ぶことに疑問を抱きました。ゴミ箱は捨てられたフィルムの箱であふれかえっている」

これを何とかできないかと考えて製作したのが、廃材を使ったピンホールカメラだった。

広告写真の世界を後にした岡部さんは、建築廃材やアルミ缶など、身の回りの不要になった素材で作ったピンホールカメラで、自分にとって一番身近な自然である「京都の空」を撮影し始めた。最近では、北山杉の廃材でピンホールカメラを作るワークショップを



太陽を真正面から撮る「光って美しい」



行ったり、写真展を開いたり、独自の路線を歩んでいる。

## 小学校でエコ授業を してくれないか

そんな岡部さんの活動を知った小学校の先生から、学校の授業で子どもたちに環境のことを考える機会を作って欲しいとの依頼が舞い込んだ。

2007年5月、京都市立清水小学校の5、6年生にエコ授業をすることに。内容は、小学生の体操服やスクール水着などを集めて、リサイクルし、エコバッグを作るといったものだ。

体操服一枚からエコバッグ約5枚を作ることができる。結局、近隣住民の方からの協力もあり、ジャージや体操服など不要になった衣服が段ボール箱3箱分集まった。

“ウチ”も捨てなくていい服が  
着たい!

ところで、岡部さんは中学生のころ、

アメリカのアウトドアウェアメーカー、パタゴニア社のリサイクルフリースを購入して以来、普段からリサイクル可能な素材を使った服を愛用している。

この授業の中で、そんなエコ服を着ている岡部さんに刺激を受けた子どもが言った。

「ウチも、先生の着ているような、捨てなくてよい服が着たい。だけど今はお母さんが服を買っているので、自分では選ぶことができない。地球はウチが大人になるまで待つてくれるかな」

学校で着ている制服や体操服はポリエステル製なので、リサイクルが可能だ。そこで、体操服のリサイクルの仕組みを作れば、リサイクル仕様の体操服を保護者も子どもも選ぶことができるのではないか。

そう考えた岡部さんは、さっそく清水小学校の先生に自分の考えを伝えた。すると、それは面白い、ということになり、「体操服！いってらっしゃい、おかえりなさい」プロジェクトが始動することになった。

## 「体操服！いってらっしゃい、おかえりなさい」プロジェクト

卒業生の体操服を引き取り、リサイクルして、新入生がリサイクル仕様の体操服を買うような仕組みを考えたのだ。

従来、小さくなった体操服は下級生にあげるなどリユースができたが、破れたり、汚れたりした体操服は捨てるしかなかった。それが、帝人ファイバー・旭化成せんの持っている技術を使うと、ポリエステル素材ならば100%リサイクル可能だ。ただし、一着当たり100円から200円のコストアップとなる。手間賃や回収のための輸送料がかかるのだ。しかし、一から作ることに比べると、石油の使用量やCO<sub>2</sub>の排出量をかなり減らすことができる。

「出した体操服がそのまま戻ってくるのではなく、資源銀行のような所に入ったん集められ、貯蓄され、使用するときは、そこから素材が在庫されると考えてほしい。同じような事業に協賛する一般の衣料メーカーからも素材が集まってくるので、共有の資源銀行に

リサイクル素材が貯められているというイメージです」

まずは、体操服リサイクルの循環の輪を作り、保護者の方に、リサイクル素材の体操服があるということ、そういう仕組みがあることを知ってもらわなければならない。それには、学校はもちろん、自治体をあげての協力体制が求められる。また、体操服メーカーにも商品開発を協力してもらう必要がある。みんなが協力して初めて成立するプロジェクトである。

「僕にできるのは、学校で楽しくリサイクルに取り組んで、体操服はリサイクルを学ぶ教材になるのだということを実証すること。選ぶのは保護者の方です」これが、目下のところ、岡部さんが挑戦している取り組みである。

## リサイクルは誰のため？

岡部さんが学校でエコ授業を行うとき、必ず聞く質問がある。

「リサイクルは誰のためにしているの？」

リサイクルできるかどうかの目印です。



**TEIJIN** AsahiKASEI

“エコサークル”は帝人ファイバー(株)の登録商標です  
“エコセンサークラブ”は旭化成せんい(株)の登録商標です  
illustration by Ryoko Kamiya



「どんなバッグができるかな？」心を込めて、ミシンを操る



小学校でピンホールカメラの説明

多くは、  
「自然のため、地球のため」との答えが返ってくる。

「リサイクルは、君たちみんなのため、人間のためではないの？」と聞か

「それは違うと思う」と返ってくる。

しかし、岡部さんはリサイクルは自分たち人間のためにしているのだと考えている。

「子どもたちにとって、地球や自然と人間の間深い溝があるように感じます。確かに、まったく同一ではないですが、僕は、人間も地球や自然の一部だと思っています。」

僕が空の写真を撮って  
いて感じるのは、地球や自然はとても身近なもの

だということです」

地球や自然を自分の身近にあるもので、自分の一部だと思えたら、リサイクルも、遠くて知らない誰かのためではなくて、自分のことだと思えるのではないか。そんな思いで、エコ授業では、廃材で作ったピンホールカメラで撮影した空の写真を、プロジェクターを通して子どもたちに見てもらおう。

すると、こんなもので写真が撮れるのか、と驚いてくれる。同時に、自然を身近で親しみのあるものと感じてもらいたいとの意図もある。

### 触れ合った子どもたちが 発信者に

毎回授業の始めの10分間は、「今週はどんなエコをしたか」をテーマに発表してもらおう。

昼間に掃除をするときは、電気を消すようになったという子。スーパードレジ袋をもらったお母さんにエコ袋を持つように言ったという子。

「子どもたちは、大人にならないと





事務所は京都の古い洋館を間借り



エコはできないと思っ  
ていることが多いけれ  
ど、子どもたちにもこ  
れだけのができる  
のだということを授業  
の中で気付いてほしい」

子どもが環境に興味を持って、体操服のリサイクルに取り組むことで、保護者は少し高くてもリサイクル可能な体操服を買おうという気になる。それは、子どもたちの力だ。

## エコで出遇う 岡部達平

●おかべ たつへい 1979年、京都市生まれ。大学生だった2000年写真家伊藤敦友氏に師事し写真を学ぶ。その後、空き缶や空き箱などをリサイクルしたピンホールカメラを作製。2003年パタゴニア社副社長リッグ・リッジウェイ氏との出遇いをきっかけに本格的に創作・発表活動を開始。現在、このカメラで「京都の空」を撮影するかたわら、写真展、講演会、ワークショップなどを行う。また、京都市教育委員会のゲストティーチャーとしてエコ授業を行っている。2005年からは「チームマイナス6%」に参加、温暖化防止や身近でできるエコを呼びかけている。



## 西郡 与志延

小川珈琲株式会社  
常務取締役

## 勝又 貴司

小川珈琲株式会社  
総合開発部企画開発課 技術指導担当課長

# 「小鳥のさえずりで 育つコーヒー」

## 一杯のコーヒーから地球環境を考えよう

魅惑的な褐色の肌、すれ違いざまに鼻をくすぐる微香に誘われ、思わず手が伸びる。口に含むと広がる豊潤な苦味と酸味。

コーヒーカップに注がれた茶褐色の液体をのぞいてみると、そこには私たちを取り巻く現代社会の姿が映し出されていた。舌の奥に残るわずかなしづみを手がかりに、コーヒーを巡る真実を探す旅に出るとしよう。

■小川珈琲本社／京都市右京区  
■2008年9月



バードフレンドリー®-コーヒー

## ☉ コーヒーの生まれた森

背の高い木々の間から木の葉とともに木漏れ日が降り注ぐ。

ここは東アフリカの森林。さまざまな高さの木々の枝葉が、幾層にも重なり空をさえぎる。足元には羊歯科の植物が茂り、落ち葉が降り積もった土は柔らかい。水分を多く含んだ空気が肌に触れると湿気を帯びる。さまざま野生動物が住まうこの地には、渡り鳥も多くやってきて、長い旅程の羽を休めていく。

そんな原生林に覆われた亜熱帯の森にコーヒーの木は生えている。成木は3〜3.5メートル。人が手を伸ばすと枝に届くくらいの高さだ。乾季と雨季を繰り返す熱帯の高地でよく育ち、白い花を咲かせ、暗赤色の実をつける。この実の中に二粒の種が向かい合っている。これが一般にコーヒー豆と呼ばれるものである。

このように、昔からコーヒーの栽培は、熱帯雨林の木陰で行われてきた。近年、世界中でコーヒー豆の需要が

増える中、中南米をはじめとするコーヒー輸出大国では、森林を切り開いた土地にコーヒーの木だけを植えるプランテーション型の栽培方法が主流となってきた。

そして、森林がコーヒー農園に開拓されることで、渡り鳥をはじめとする野生動物の生息する自然環境が失われつつある。

## ☉ バードフレンドリー® (鳥にやさしい)コーヒー

このことに危機感を覚えた、米国ワシントンにある国立スミソニアン動物園内、スミソニアン渡り鳥センターの、ロバート・ライス博士が中心となって、1990年代バードフレンドリー®コーヒープロジェクトが始動した。

渡り鳥が羽を休める森のような有機(※1)コーヒー農園に、バードフレンドリー®認証を与え、その農園で採れた豆を購入し、加工・販売する業者にも認証を与えることにした。

現在、メキシコ、ペルー、コロンビア、

グアテマラやコスタリカといったコーヒー生産国では、農家一軒一軒の、自分の土地を環境にやさしい状態で守りたい」と、そして「できるだけ多く栽培したい」という気持ちだが、結果的に鳥や動植物の生息地の確保につながっている。つまりこういった農家の心が土地を守っているのだ。

このように、バードフレンドリー®とは、生産者、加工会社、販売会社がひとつになって活動に取り組むことで、森林の保護につなげようという試みである。

日本では、この考えに共感した商社と小川珈琲がスミソニアン協会との輸入販売契約に調印し、2005年同協会の認定する「バードフレンドリー®」のコーヒー豆の輸入を始めた。

一般の消費者が地球環境保護への貢献を実感できる数少ない機会のひとつを提供している。

小川珈琲では、メキシコ、グアテマラ、ペルー産のバードフレンドリー®コーヒーを取り扱っている(※2)。値段は通常のものより3割ほど高い。





コーヒーの乾燥風景



手入れを怠りなく



コーヒーの白い花



コーヒーの実が成熟する過程

消費者の  
選択

「われわれが着眼しているのは、コーヒー農園を昔ながらの森林状態に戻すという取り組みです」と勝又さん。

消費者がどんな商品を選ぶかは、どんな生産農家が生き残っていくかということと密接に繋がっているのだ。

「世界は、今、量を求めています。広大なコーヒー農園にコーヒーの木だけを植えて、機械で収穫するという大量消費のための栽培をしています。でも本当に美味しいのは、原生林の木陰で熟成した



選別



麻袋いっぱい



収穫



本社花壇の収穫風景を再現した人形



「いい豆です」



グアテマラパティオ



メキシコイルランタ農園

実を、人の手で採集した  
コーヒーなのです」と西  
郡さん。

本社の花壇には、コーヒ  
ーの林と、赤く熟したコー  
ヒーの実を手摘みする人形  
が配されており、コーヒ  
ー栽培の様子がよく分か  
る。バードフレンジー®  
が理想とするコーヒー農園  
の風景だ。

取り扱い始めた当初はあ  
まり売れなかったというバ  
ードフレンジー®コーヒ  
ーだが、小川珈琲の有機栽  
培系コーヒーのカテゴリ  
ーにおいて、2008年度現  
在、年間約200%のペ  
ースで売り上げを伸ばしてい  
る。こうした事実から、消  
費者の関心が高まっている  
ことがうかがえる。

自然環境や生態系との調  
和を実践した有機栽培コー  
ヒーだが、小川珈琲の商品

構成の中では2、3割を占めるにすぎ  
ない。

輸入コーヒーに有機認証を付けるに  
は、農産省と同等の機関の認証が条件  
となる。このため、生産国が認証機関  
を持っていないければ、有機栽培してい  
ても認証はもらえないということも有  
機商品が少ない理由のひとつである。  
そんな中でコーヒー豆を扱う商社・問  
屋の中には、有機認定機関を持たなく  
ても、いいコーヒー豆を作っている地  
域には出向き、生産者や農協を訪れ、声  
を聞いたり、農薬の使用量を調べたり、  
交流・調査を活発に行い、いい商品を仕  
入れようとしているところもある。

さて、ここまでコーヒーの真実を探  
す旅をしてきたわけだが、一杯のコーヒ  
ーには世界のさまざまな事情と人々の  
思いが込められていることが分かった。

コーヒーに限らず、食料を輸入に頼  
る日本が、今後どのように生きていく  
のか。生産者であり消費者である私た  
ちは、大きな課題を背負っている。

まずはいろいろな現実を見つめてみ  
たい。



「MOHラテアート」美味しかった♡

真剣なバリスタ・岡田氏

## お客様へのおもてなし

喫茶店の店頭に立ち、エスプレッソをはじめとするコーヒーを入れるスベシバリスタを、イタリア語源でバリスタという。バリスタは、コーヒーを美味しくいれることはもちろん、コーヒー全般についての知識を持つプロフェッショナルだ。中でも、エスプレッソの上にスチームミルクを注ぎ、ミルクの表面にエスプレッソでイラストを描くラテアートは人気がある。

今年春、日本国内で開催されたバリスタの腕を競うジャパン・バリスタチャレンピオンシップで、小川珈琲のトップバリスタである岡田さんが準優勝の成績を収めた。その結果を受け、日本スペシャルティコーヒー協会（SCAJ）から要請があり、7月にコペンハーゲンで開催されたワールドバリスタチャレンピオンシップに出場し、世界3位となった。

生産者と消費者をつなぐ小川珈琲の挑戦に、今後も目が離せない。





「ぜひ、ご来店ください」西郡氏(左)と勝又氏(右)



小川珈琲店内



コーヒー教室の風景

# 西郡与志延 勝又貴司

●にしごおりよしのぶ1946年守山市生まれ、小川珈琲株式会社常務取締役

●かつまた たかし1960年京都市生まれ、小川珈琲株式会社総合開発部企画開発課技術指導担当課長

●小川珈琲株式会社〒615-0802  
京都市右京区西京極北庄境町75番地  
TEL 075-3313-7333  
FAX 075-321-5609  
URL [www.oc-ogawa.co.jp](http://www.oc-ogawa.co.jp)

※1 有機農業・自然環境や生態系との調和を実践した農業  
※2 「イルランダ」というメキシコ産のバードフレンドリー®コーヒーをはじめ、単品からブレンドまでさまざまなバードフレンドリー®商品を品揃えています。  
35〜38ページの写真は参考写真です。

# 滋賀県発の メディアに託して



## 川本 勇

ミュージシャン、DJ、メディア・プロデューサー

### “ミスターびわ湖” 川本勇さんに ロングインタビュー

びわ湖放送の番組や、♪マザー・レイクのメロディで、滋賀を盛り上げる人物といえばこの人、川本勇さんです。これまで勇さんの番組に数回、出演をはたした辻村編集長が、滋賀のメディアならではの特性や、メディアの可能性について、勇さんの思いをまじえながら、お話をうかがいました。

■インタビューー 辻村 琴美 本誌編集長

■(株)ユーストン (大津市)

■2008年10月

## 宇宙船B-1 WAKO号 — びわ湖ソングプロジェクトを 振り返って



— 今日はずっとばらんに、ホルスタイン琴美が勇さんに、お話を聞いていきたいと思います。

**勇さん** その「ホルスタイン琴美」って、『びわカン』に牛の衣装で出演（※7月25日放送分）してくれたときからの、自称やそつやね（笑）。

— すすんで名乗ってます（笑）。私は、勇さんは、環境という一見、堅苦しいテーマをコンセプトにしながら、娯楽的な要素の強い番組をプロデュースできる貴重な存在だと思っっているんです。でも勇さんが、そのスタイルに至るまでの経緯をよく知らないのです、そのあたりのことから聞かせてください。

**勇さん** 大きなきつかけは、過去に僕自身が抱いた、環境への危機感です。かつて、環境というのは識者や学者のものだ、という時代があったでしょ。そんな昔の話じゃなくて、十数年前のことなん

ですよね。僕はその頃から、メディアの人間として滋賀県とおつきあいがあつたけれど、いくら行政が「環境先進県」とフレーズを掲げてみたところで、一般の市民の認識とは乖離しすぎていて、これはアカンと思った。それで、行政と市民、学者と市民、双方の橋渡しを僕ができないかと思つたのが最初です。

— そこで滋賀県の人たちが思い浮かべるのは、やっぱり『マザー・レイク』のメロディでしょうね。

**勇さん** 橋渡し役として具体的に動き出したのが、BSP（びわ湖ソングプロジェクト）からやつたからね。2000年に僕と滋賀県庁の若手職員のアイデアで、みんながびわ湖を愛するようになる、大切にするようになるような歌をつくらうと、BSPを結成した。そこからフレーズを幅広くみなさんから募集して歌詞を作って、2001年に『宇宙船B-1 WAKO号』のCDを発表したんです。

— 発売したところ、TSUTAYA 浜大津アーカス店では月間シングルCDチャートの1位になったという…。

これは快挙でしたね。

**勇さん** 今ほどエコという考え方も根づいてなかったしね。滋賀に暮らす若い子たちや、これまで環境に無関心だった層に向けて、「投げかけてみた」というのが本当のところやったから、驚きました。関係者が買ってくれた分もあるけど、宇宙船B-1 WAKO号や、マザー・レイクという言葉に、皆がちよつとびわ湖へ意識を向けてくれたんじゃないかな、と思ってます。

— アルバムジャケットの写真を見ると、たくさんの人が歌ってるんです。当時の國松知事もおられます。

**勇さん** 『ウィ・アー・ザ・ワールド』なんです。県内のアマチュアミュージシャンに呼びかけて、リード・ヴォーカルをリレー式でとつたから。やつぱり、音楽をやっている若い子たちにしたら、1行でもメイン・ヴォーカルをとるのは、責任の重いことなんやね。だからこそ誠実に、歌のメッセージを考へながら歌ってくれた。それこそ、びわ湖を愛することに通じると思います。

——しかも音楽って、半永久的なもの  
やから、時を経てなお、人の心を打つ  
可能性を秘めているでしょ。

**勇さん** BSPは県からの補助金をい  
ただいてますけど、従来の行政チツク  
な手法への、僕なりのアンチテーゼで

——その頃からですか、勇さんに“ミス  
ターびわ湖”の愛称がつくようになった  
のは。



石山駅から徒歩5分、国道1号線沿いにあるU★STONE

もあつたんです。音楽  
の影響力だけをとって  
みても、お金の使い道  
としては、画期的やつ  
たと思います。さらに  
言えば、BSPの応援  
団長を務めていただい  
た國松前知事や、ブラ  
イベートな時間を使っ  
て、熱心に参加してく  
れた県庁の若手職員、  
その時の人のつながり  
が今も続いていて、非  
常に僕自身の心の支え  
になってますね。

**素材は環境、  
現場は石山。  
地産池消的な  
メディアビジネス**

**勇さん** それは、本人が好むと好まざる  
とに関わらずやね(笑)。98年頃に作っ  
た『マザー・レイク』が、FM滋賀の

「E・コロジエ」、びわ湖放送の「WE  
LOVEびわ湖」キャンペーンのイメ  
ージソングになって、良い意味で、これ  
は次の曲もびわ湖をモチーフにせなア  
カンのやないか…と(笑)。でも原点  
は、自分が大津に暮らして、常にびわ湖  
の存在を身近に感じながら、その中で  
楽曲を作るのに、びわ湖がモチーフと  
して上がらんわけがないからね。

——勇さんは石山育ちなんですよ。

やはり、地元への思い入れというのは？

**勇さん** 非常に強いですよ。僕が十代  
の頃、石山は若者がおるような街やな  
かったんです。それが嫌で、僕は大阪へ  
飛び出したけど、いつか社会人になっ  
て、成功したら故郷で、と思いつけてき  
たんです。僕が十代、二十代だった頃の  
ような若者が、自分の夢を膨らますこ  
とのできる環境があって、自分の街を  
誇りに思えるようになること。この街  
に住んで、仕事もあって、きちんと暮ら

していけること。思い描いていた夢が  
やっと叶って、ユーストンという会社  
を05年に設立しました。

——テレビやラジオの前のみなさん  
は、あまり知られていないだろうと思  
いますので、簡単に紹介しますと、勇  
さんは、大阪にユーロック、石山にユ  
ーストンという二つの株式会社

代表取締役です。おおまかに、  
ユーロックでは音楽やファッ  
ションをモチーフにした番組  
制作を、ユーストンでは、び  
わカンこと『勇さんのびわ湖  
カンパニー』をと、それぞれに  
プロデューサーとして手腕を  
ふるっておられます。ユース  
トンは、同じ名前のライブハ  
ウスも運営していて、メデイ  
アの制作スタッフ、音楽スタッ  
フと、地元で若者の雇用を創  
出しているんです。

**勇さん** ご丁寧にありがとう  
ございます(笑)。

——まるで、食べ物物の地産地

「番組制作でメンが食えるよ」勇さん

消のような感じですね。地元生まれの  
若者に、社会人として地元で活躍しても  
らうという。

**勇さん** そうやね。メデイアビジネス  
の規模で言えば、滋賀県は東京の百分  
の一、大阪の十分の一とか、その程度で  
す。当然、都会に比べたら、薄給です。



でも、収入じゃない幸せ感って、あると思うんです。東京に出て、思い切りお金を稼ぐのも幸せかもしれないませんが、少なくとも僕は、その段階を卒業して、滋賀県発のメディアビジネスにこだわっていくことを志しました。滋賀県というと、やはり環境というテーマは、はずしたらアカンでしょ。まあ、BSPの経過も含め、好きで始めたというのもあるけど、滋賀県のメディアだからこそ、堂々と環境をモチーフにできるんです。ユーストンは、そのための現場ですね。

## 「BBCに言ってみよか？」 そんな滋賀の感覚が、 メディアを後押しする

——メディアの人間として、勇さんは“滋賀県らしさ”を、どんなふうに捉えていますか。

**勇さん** たとえば大阪には、関西テレビや毎日放送、いくつもテレビ局があるわね。でも大阪府民は、そういうった局の番組に自分が出たろうという気はあ

まりないんやね。局側にしても、出す気はない。その点、滋賀県の良いところは、よくもわるくもメディアの存在が非常に身近で、何かおもしろいこと、珍しいことがあったから、BBCに言うてみようかと、そういう空気があるよね。それは人口130万人の県規模（※今年8月に140万人を達成）やからこそ成立する感覚なんやと思うし、滋賀県のメディアにとっては、サイの目のように細かく、県内を取り上げることでできる、「可能性なんやと思う。そんな土壌があるんやから、がんばって地道に、自分たちなりの活動を続けている人たちに、こちらから光をあてていくやないかと。そういう番組は不在やったし、そこにウエイトを置いて、02年の9月から始まったのがびわ湖放送の『びわカン』なんです。8月に辻村さんが出演してくれたKBS京都ラジオの番組『GO! GO! ユーストン』もコンセプトは同じです。こんなふうになんばっている人がいますと、存在を知らせること、その人たちの思いを、

他者にアピールできる場をコーディネートすることが、僕らメディアの役割やと思つてます。

——8月のラジオ出演時に、私は情報誌を発行する立場から、他にも無農薬農業に従事する人、びわ湖材を使った住まい作りを提案する企業にお勤めの人、大津友の会に所属する主婦の人と、それぞれの立場から環境活動へのメッセージを言わせてもらいました。その中で、主婦の方が「自分たちは消費者と呼ばれるけれど、生産的な生活をしようという意識で……」というようなことを言われて、私もそう、それなのよと凄く嬉しかったんです。

**勇さん** それこそメディアの強みである“つながり”やと思いますね。有意義な活動をやっている人たちは、たくさんいます。でも、自分たち組織ごとの縦割りで、あまり横を見てないんですよ。そこをメディアは、あの人とこの人、あのグループをつないでみてと、地域分野を横断することが可能でしょ。そうやって集まってくれた人同士が言葉

交わして、次は番組やとか、「勇さん」という触媒なしにつながってくれることって、結構あるんよ。そういう糸を通すようなことを続けるうちに、いつか綺麗な布が織り上がるんじゃないかと思っています。僕の活動として、これまで築いてきたネットワークが第一期として、そろそろ「結ぶ」という第二期へ、移行しつつあるという感じですね。

つまり、滋賀県のメディアは、まだまだ可能性を秘めているということですね。

## 環境先進県の県民性で、 世界とコミュニケーション!



——今、発売中のアルバム『地球のためにびわ湖から』は、そのまま環境キャンペーンのタイトルになっているでしょ。結ぶということ言えば、地球とびわ湖、とても大きな世界観を持って取り組もうと考えてはるのかな？

**勇さん** たいそうなタイトルやと言われるけど、環境問題は地球単位で進行

してるでしょ。日本のためにびわ湖からという発想では、もういられないと思うんです。僕自身、ここ数年で言えばアジアと、特にアジアの子どもたちに関心があって、8月にカンボジアを訪れた際の様子を『びわカン』で放送したんです。カンボジアには東南アジア最大の湖、トンレサップ湖があって、何か交流が図れないかと思ったから。でも、旅で目の当たりにしたのは、水道も井戸もなく、濁った水を飲み水にするしかない人々の暮らし、汚れていよが、破れていよが、他に着るものがないという人々の現状でした。それで番組で、次に行くときは、井戸を掘って、古着を持っていくと宣言したら、たくさんの方が、これも持って行ってくださいって、古着を送ってきてくれて、あつという間に大きな段ボール4箱分ですよ。それをスタッフで手分けして携えて、9月にカンボジアを再訪問した映像を、この10月に2週にわたって放送しました（※ネットTV「びわちゃん」で放映中）。

——私も拝見しました。村の子どもたちが、みんな着替えたして、それまで見た目がモノクロの印象だったのに、パッとカラーに変わったんですよ。どれも古着なん？と思うほど状態が良くて、それぞれの家庭で、綺麗にとっておかあったものを、差し出されたんじゃないでしょうか。井戸掘りもスタートして、勇さんの帰国後、数日して、村の人たちが井戸水を飲んでいる映像が届いてましたね。

**勇さん** やっぱり滋賀県の県民性として、困っている人たちを、手助けしてあげたいという、強い気持ちがあるんですよね。積極的にアクションを起こす人は少ないかもしれないけど、今回みたいに、勇さんが何か言うてるし、ちょっと私たちも手を貸そうかと。だから、心にグツと響くようなものがある活動や、呼びかけに対しては、物凄く大きなアクションが期待できる県だと思っんです。先進国日本の中の、環境先進県と言われる滋賀県が、環境に対して、どんなアクションを起こすのか。



見過ごせない、手助けしたいという県民性を誇りにしたいから、そこを僕たちが、いかにプロデュースするかだと思っています。

——カンボジアの子どもたちへの古着のプレゼントにしても、“うねり”が起こったのよね。そういう経験を、これから何度も重ねていったら、滋賀県



「たくさんのびわカンピールを紹介したい」勇さん

のポテンシャルは、とても高まるでしょうね。

**川本勇に続く人を  
作って、**

**思いを引き継いで  
もらう**

——では最後に、今後の課題はありますか？

**勇さん** そうやね。偉そうに聞こえるかもしれないけど、川本勇に続く人を、作っていかなアカンと思っ  
てます。環境団体でも、  
トップがいなくなつた途  
端、活動が行き詰まったと  
いうところは多いでしょ。  
僕の思いを引き継いで  
もらうためには、やっぱり

環境活動をコンセプトにしたビジネスがきちんと成り立つんだという基礎を築いておかないと。意外ときれいごとじゃないんよね。僕も大学を卒業後に、



この業界に入って、番組を演出するだけじゃなく、きちんとお金がまわる仕組みとか、そういう金銭がらみの部分も鍛えられて、身についたシビアさやタフさが、ベースになってるから。環境というものが、これだけワールドスタンダードになった今、予算が約束されている学者や行政だけが、環境活動をリードする時代は終わったと思う。ビジネスとして真正面から環境に取り組むんだと、もつと真正直に、エネルギッシュに言う人がどんどん増えて、行政だよりじゃないビジネスモデルができてこそ、環境活動は継続するんとうちがうかな。

——メディア・プロデューサーとしての冷静な横顔ですね。

**勇さん** でも、そういう顔は、テレビではあまり見せたくないな。『びわカン』もまだまだ湖南が中心やから、MOH通信のような湖北中心のメディアを、僕らも応援せなアカンと思うし、情報交換も大事やと思ってます。これを読んだ人の中で、テレビでこんなこと言

いたいという人があれば、ぜひメールで連絡してください。そのときに「プロデューサーの勇さんは、厳しい人なんや…」って距離を置かれたくないんよ(笑)。

——滋賀県の人にとって、やっぱり気さくで、ギターを持って歌ってはるのが勇さんやからね。今日はどうもありがとうございました。

**勇さん** こちらこそ、ありがとうございます。



(上) 地球のためにびわ湖から  
(下) 宇宙船BIWAKO号

【番組案内】

- 勇さんのびわ湖カンパニー (BBCびわ湖放送)
- 毎週金曜 深夜24時20分〜25時15分放送
- 勇さんのGO-GO-GO-ユーストン (KBS京都ラジオ)
- 毎週日曜19時30分〜20時30分放送

2008.10.9

● かわもと ゆう||大津市在住。滋賀県立膳所高校・大阪市立大学卒業。関西の番組製作会社を経て、96年に㈱ユーロック、05年に㈱ユーストンを設立、代表取締役。また、「びわ湖をプロデュース」するNPO法人「びわ湖カンパニー」代表。メインパーソナリティを務める番組『勇さんのびわ湖カンパニー』は、今年9月に7年目に入。06年には立命館大学にてメディア・プロデュース論の講師を務めるほか、現在、産経新聞滋賀版にて『勇さんのびわカン日記』を連載するなど、多彩な分野で活躍中。

● 株式会社ユーストン ||  
〒520-0832 大津市粟津町11-12  
<http://www.u-stone.jp>  
◆ メールでGt連絡は [u@u-stone.jp](mailto:u@u-stone.jp) まで！

# かつてのルール炭鉱町は今

畑 裕子



ルール炭鉱跡

長い冬が終わりを迎え、行きかう人々の顔には春の喜びがみなぎっている。滞在地から列車とバスを乗り継ぎ、目的地マクシミリアン公園にやってきた。場所を尋ねるまでもなく公園に向かって人の流れができていく。どうやらイベントに出くわしたようだ。やがて「ガルテンマルクト」（庭市）と大書された大きな横断幕が目に入ってきた。

長い冬が終わりを迎え、行きかう人々の顔には春の喜びがみなぎっている。滞在地から列車とバスを乗り継ぎ、目的地マクシミリアン公園にやってきた。場所を尋ねるまでもなく公園に向かって人の流れができていく。どうやらイベントに出くわしたようだ。やがて「ガルテンマルクト」（庭市）と大書された大きな横断幕が目に入ってきた。

## 公園に变身した炭鉱跡地

公園内に入る前から異様な建物が目を射た。よく見るとガラスの象を模している。眼と象の牙が定かになってくると異様さは親しみと偉容さに変わった。炭工場跡の建物を利用した公園のシンボルとなっている。一九八四年に開催された造園見本市の後に、歴史的産業遺産をモチーフとした公園に甦つたのだという。「古いものを残して新しいも

のと対比する」新旧融合の施策は、ドイツが現在取り組む地域再生の課題である。

園内に一歩入るや、花好きな私は色とりどりの花の楽園に感嘆の声をあげる。その様子を見ていた露店の主は、ここにこしながら鉢花や球根を勧める。だが、残念ながら日本へ持って帰ることはできないのだ。売っているのは花だけではない。手造りの作品が客を呼んでいる。さらに参加者の楽しみとなっているのはあちこちにテントを構えた食べ物屋さんである。早速行列に並び、じゃがいもと肉とサラダの組み合わせの一皿を注文する。どの顔も頬が緩み、その場で調理しているコックさんは大入り満員に顔を真っ赤にして奮闘中である。「グーテン・アペイト」おそらくこの公園で唯一の日本人に「おいしく召し上がれ」と

笑顔をふりまく。

飲み物はすべてノン・アルコール、イベントの取り決めのようだ。のんべえさん、お気の毒と思うが、不満そうな顔の人は見当たらない。建物や樹木は当時のものがそのまま保存されており、二本のレールに沿って歩いて行くとかつての立坑の入口に着いた。トロツコでここから採掘された石炭が運ばれていたのだから。モニュメントに見入っていると当時の坑夫の荒い息遣いが聞こえてきそうだ。

四方の広場から子供たちの歓声が聞こえてくる。遊具はむろん、サッカーに興じる親子連れ。公園内をぐるりと巡り、念願のガラスの象さんへとエレベーターで上がる。春を通り越して初夏を思わせる青空が最上階からの眺望をいっそう際立たせている。この地が本当にかつて炭鉱町

であったのだろうか。ハム駅に着くまではドイツの環境首都に選ばれた町ではあっても、ある程度は元炭鉱町の陰のような部分は残っているだろうと思っていた。が、道中の景観は予想を見事に覆した。さらに炭鉱跡地に立った私は市民の憩いの場となっているマクシミリアン公園を目の当たりにして、ドイツの地域再生への努力を実感させられた。と同時にテレビのドキュメントなどで放映された日本の鉱山跡地が儼に浮かび、その落差を思わないではいられなかった。

が、若葉に萌える森を見下ろしているうちに心境が少し変化してきた。遅すぎるといふことはないのだ。秀吉以来の町衆の力が今なお持続する長浜市では新旧取り入れた魅力的な町づくりがなされ、島根県の石見銀山跡は産業遺産

として世界遺産に指定された。それにしても私たちはドイツの地域再生の取り組みを学ぶ必要があるだろう。



マクシミリアン公園にて作者近影

畑裕子

●はた ゆつこ 1948年京都府生まれ。奈良女子大学文学部国文科卒業、京都で国語教師を勤める。その後、滋賀県に転居。1993年・第5回朝日新人文学賞受賞、1994年・第14回地上文学賞受賞、滋賀県文化奨励賞受賞。主な著書「画・変幻」「近江百人一首を歩く」「椰子の家」「近江戦国の女たち」など。日本ヘンククラブ会員。

# シンガポールの 安定水源確保に向けた 取組み



井上 昌幸

シンガポールはマレーシア・ジョホール州の南に位置し、人口468万人（内約100万人は在留外国人）、国土面積704km<sup>2</sup>（琵琶湖面積670km<sup>2</sup>）の平坦な、東西42km南北23kmの島国である。日本と同じく資源の少ない国でありながら、長期的な国家戦略のもとに、東南アジアのハブとして空港や港湾を整備して世界の物流拠点となっている。

シンガポールはASEAN自由貿易地域（AFTA）における地域内関税を撤廃しており、欧米・日本など、多くの国々との間に二国間自由貿易協定（FTA）を結んで種々の項目の関税を撤廃している。このようにして自由貿易国として、デリバリー拠点の地位を確保している。

シンガポールは多くの国家プロジェクトを計画的に進めているが、重要課題の一つは水対策である。

現在、シンガポールは水の需要量の約50%（約21万トン／日）をマレーシア・ジョホール州から低い価格で供給されており、浄化した水の一部をジョホール州に付加価値をつけて供給して

いる。しかしながら、ジョホール州が浄化装置を設置したため、シンガポールから浄化した水を購入する必要性がなくなっている。

マレーシアとシンガポールとの間で結ばれている水の供給に関する契約は、2011年と2061年に更改期をむかえるのだが、マレーシアは原水の価格を100倍にする可能性がある。

そのため、シンガポールは水の自給率を上げるための様々なプロジェクトを進めている。

## 水源開発の取組み

### 一・雨水集水システムの拡充

シンガポールの年間降水量は2400mmであるが、地形が平坦なため山林による保水能力がなく、河川も少ない。

単純に計算すると、国土面積704km<sup>2</sup>×降水量2400mm＝1690km<sup>3</sup>の年間雨量がある。建物の屋上に降った雨水などは排水溝を通して集水し、さらに集水池に溜めて貯水池に送水するシステムが整備されている。こう

した工夫をかさねて国土に占める集水域の割合を現在の1/2から計画的に2/3にまで拡大する予定である。そのため各ビル自前の雨水貯蔵タンクの設置を禁止する規制がある。

## 二・国外水源の確保

インドネシアの水源の利用を検討しているが、パイプラインの建設や船舶による輸送コストが大きく、具体的には進んでいない。しかし究極的な水の確保のためには重要な選択肢である。

## 三・海水淡水化

科学技術の発展による処理コストの低下を背景にして、海水淡水化プラントが建設されている。民間企業が建設・運営しているプラントで製造された水を公社が購入し、その水を市民に供給するシステムが実用化しつつある。他のシステムと比較してコストをどこまで下げられるかが大きな課題である。

現在、1mにつき0.45米ドルにまで単価を下げることに成功して

いる。

## 四・下水道処理

シンガポールの下水道システムは、汚水と雨水の流れを分離する分流式を採用している。雨水は排水路から川や貯水池に流れ込んでおり、汚水は下水処理施設に運ばれて処理され、工業用水工場に送水され、工業用水に精製されている。

## 五・ニューウォータープロジェクト

「ニューウォーター」とは、下水処理場で通常の処理が終了した水に更に三段階の浄化処理を施し、飲用可能な水準まで高度処理した再利用水のことである。

ニューウォーター工場では、下水処理施設から送られてくる処理済みの水に、マイクロフィルター、逆浸透膜、紫外線殺菌という三段階の処理を施している。ニューウォーターの処理コストは海水淡水化費用の約半分である。

ニューウォーターの水質は従来の上水道と同じレベルを保持している。

今後は、ニューウォーターを貯水池に放水して雨水などと混合して原水としての利用を開始する計画であり、2011年までに原水中のニューウォーターの割合を25%にまで引き上げる予定であると言われている。

以上のように、シンガポールにおける水対策は死活問題であり、国を挙げて真剣に対処している。我々日本人はただ同然に思っている水の有り難さを再認識する必要がある。

(参考文献 CLAIR刊行物)

井上昌幸

●いのうえ まさゆき1940年1月1日生まれ。現在、滋賀県農業種交流連合会会長、STEP21滋賀県シニアテクニカルエンツニアリングパートナーズ企業組合)専務理事、関西師友協会活字塾講師、大津木鶏クラブ代表世話人、近江素交会代表世話人



# 「秋の夜長を楽しむ夕べ」 開催しました。

日 時／平成20年9月27日(土)14:00～20:30

場 所／森林公園「くつきの森」やまね館 滋賀県高島市朽木麻生443

テーマ／ハッピーな未来をめざして～大人から子どもへ伝えたい森林の世界～

内 容／Ⅰ部

(1)座談会

パネリスト:今関 信子氏、中村 美重氏

コーディネータ:森 建司氏

(2)里山料理で交流会

地元の料理を使ったお料理バイキング

Ⅱ部

「秋の夜長を楽しむ夕べ」

朽木太鼓、ビートルズバンド・アビーロード、高島市民ジャズバンド・ビッグベルによる  
野外演奏

司 会／坂本 由貴枝氏

主 催／NPO法人麻生里山センター

協 賛／高島森林体験学校、MOH通信

後 援／高島市

参 加／50名

料 金／Ⅰ部:2500円(食事つき) Ⅱ部:1000円 I・Ⅱ部:3000円



今関信子氏(児童文学作家)



中村美重氏(NPO法人クマノヤマネット理事長)



森建司氏(新江州株式会社)



玉垣勝氏(NPO法人麻生里山センター代表理事)

## 第I部

今の豊かな森林を子ども達へ引き継ぐために、大人が今できることを考えましょうというテーマで座談会が行われました。



坂本由貴枝氏(麻生里山センター職員)



加藤みゆき氏(麻生里山センター職員)

麻生里山センターの職員が、昔と今で森林と人間の生活がどのように変わってきたのかを説明していた時に出た、「森の将来はハッピーじゃないやん」という子どもの一言。これが今回座談会のテーマを考えるきっかけとなりました。それでは子どもがハッピーと思える森林の未来を引き継いでいくために大人が今できることは何なのか？今回は2人のパネリストをお迎えし参加者のみなさんと一緒に考えていくことにしました。

パネリストの今関信子氏と中村美重氏は、普段から子ども達に接し、体験を通して学ぶ環境教育にも熱心に取り組んでおられる方々です。お2人の体験談をもとに、客席の参加者からも積極的な発言がありました。森の将来は一朝一夕で変

## 〈里山料理で交流会〉

地元食材を使った、朽木の伝統的な里山料理バイキング。地元のおばちゃんたちの、心温まる美味しい料理の数々を楽しみました。



焼鯖そうめん



ぜんまいとあげの煮つけ



睦美会の山本悦子さんよりお料理の説明。

わるものではありませんし、何かしたくとも環境問題との絡みもあって規模が大きすぎてどこから手をつけていいか分からない、といったことも起こりがちです。しかし何にせよ、1人1人の小さな行動の積み重ねによって未来が作り出されて行くことは確か。それをしてっかり認識し少しずつでも行動できる人間になるためには、やはり幼少期に自然と触れ合う体験を通して、自然に対する感性をどれだけ培ってきたか、ということにかかっているのではないかと思います。もちろん大人になってからでも遅くはありません。子どもからの自然への感じ方、疑問などを一緒に受け止め、一緒に考え行動していく積極性が、今の大人に求められているのではないのでしょうか。





鯖寿司



白和え



鯖の塩焼き



きゅうりと麩のからし合え



芋の煮ころがし



### ●参加者の声

「不安より楽しさや気持ちよさを伝えられるようになりたい」  
 「シニアの役割があることを考えたい」  
 「大切な森を残していかねば」  
 「朽木らしいお料理でおいしかった。素材の味が生かされた味付けでした」  
 「里いも、鯖そうめんがおいしかった」  
 「色々な人とお話ができてよかった」

座談会が終わった後は、地元睦美会の方々による朽木の里山料理のバイキングです。地元特産の鯖寿司をはじめ、絶品の焼き鯖そうめんや地元で取れたぜんまいとあげの煮付けなど、品数はなんとおよそ15種類！素材で味わい深い田舎料理を堪能しました。



地元の演奏家による熱気あふれる演奏




勇壮な朽木太鼓の音色

**第Ⅱ部**  
「秋の夜長を楽しむ夕べ」と題して、地元で活躍中のアマチュア演奏家の3団体による、野外コンサートを楽しまました。

第Ⅱ部は秋の澄んだ空気のもとで楽しむ夜の野外コンサートが開催されました。今回は高島市内で活躍中の、朽木太鼓、ビートルズバンド・アビロード、高島市民ジャズバンド・ビックベルによる演奏です。太鼓の勇壮な響き、ビートルズの懐かしいナンバーや、しっとり聞かせるジャズの名曲など、バラエティに富んだ演奏を楽しむことができました。

**●参加者の声**  
「少し寒かったけど太鼓とジャズ良かった」  
「ジャズと太鼓を合わせた曲が聴いてみたい」  
「ありがとう！もっと聞きたかった」

ペットボトルで作られた行燈が足元を照らします



# ふれあい

## 第12回

### 『町内会長』

中井 二三雄



町内会長のなり手がないと、お母さんが悩んでいます。

お父さんが「君がなればいいじゃないか」と言うと、「だって、会長は昔から男性に決まっているし、私なんかダメよ」と、お母さんはくれます。

「家事は女、会長は男って誰が決めたんでしょっつね」。お母さんは面白くありません。

「本当だ、誰が決めたんだろうつ」。妹がお母さんの真似をします。

ぼくだって「男は外で仕事、女は家

で家事」ってなぜ決まっているんだろうと、いつも疑問に思っている。

家事、育児、地域活動：それが何であって、男でも女でも、若くても年寄りでも、やりたい人、できる力がある人がやればいい、と思っただけ。

「ジェンダー（性別による役割分担）は、そう簡単にはなくならないだろうが」。

お父さんとお母さんの難しい話が、また始まりました。

さあ、二階へ行ってゲームでもしよう。ぼくは妹を連れて、サッサと退散しました。

「コラー、お兄ちゃんが、男が先だろ！」（アツ、イケネ）。

中井二三雄

●なかい ふみお 1949年、守山市生まれ。広告・出版・映像関係の仕事を経て、1976年から著述業。滋賀県文化振興事業団発行「湖国と文化」編集長。大津市在住。



「鉄を熱するでしょう。ほうら曲がった」山口氏(右) 左はニューフェイス

# 環人会ツアーvol.4

## 「高島ツアー」

「創造環境が未来をデザインする」

- ◆日 時／9月6日(土) 10時～16時晴
- ◆場 所／高島市朽木・手仕事工房  
『あけっぴろげ』訪問
- ◆集 合／JR安曇川駅
- ◆参加者数／14名
- ◆訪問先／「AKARIオブジェ手仕事工房」  
山口耕一郎&晴美宅、  
朽木・小川(こかわ) 榊始宅
- ◆住 所／高島市安曇川町南古賀966-3  
TEL.0740(33)0179  
<http://www/eonet.ne.jp>
- ◆案内人／青谷守、藤原久代、小島猛



「かあ〜わいい」晴美氏作

## 高島に移り住んだ作家たち

「アケッピロゲってすごい、がん大胆なネーミングやなあ」と言いながら、メンバーは集合しました。今回は初々しいニューフェースも一名参加し、なにやらウキウキ気分です。

山口耕一郎氏は、新進気鋭の鉄のオブジェ作家。晴美さんは、愛らしい表情が特徴の陶芸家。仕事を見学しました。ここ、高島市安曇川町南古賀は、若手作家の拠点になりつつあります。木工芸、染色、陶芸、鉄工芸、ガラス工芸など18のアトリエが集積しています。



「繊細な魚のオブジェ」耕一郎作



「和ろうそくの燭台」耕一郎作



「お茶目なおかめさん」晴美作



「ナア〜となきそうな猫」晴美作

ユニークなのは「アトリエを開放しよう」と始まった『あけっぴろげ』。期間限定で開放可能なアトリエに限定されるものの、製作現場が見れるとあって「来場者数は右肩上がり」（山口氏談）。

作家は孤独を好むと思いがちですが、さにあらん。あけっぴろげの作家たちは、地域の事や将来設計や子どもたちの教育にいたるまで、ものづくりに向けたいくらかの情熱と根気と仲のよさで「ミニユニティをつくっているのです」。

「創作意欲をかきたてる地域づくり」が彼らの課題なのでしょ。

山口氏を紹介する青谷氏（中央）と藤原氏（右）





「えっ!ここが入り口?」榊氏宅訪問

都会のセンスが光る照明



ほおずきがインテリアに



薪ストーブ



枯れ枝もお部屋飾りに



のどかな農村のたたずまいがすぐそこに

## 農的生活を満喫

朽木・小川こかわに移動しました。榊さん  
がお待ちかねです。彼は、映画プロデュー  
サーの経験を持つ写真家です。京都  
と朽木の二居住生活です。妻子はそれ  
ぞれ生活拠点を持ち、ここは彼らが安  
息の場(?)として週末を過ごします。

榊氏は、「農的生活」を始めんと、  
稲作や趣味の草刈に励みます。彼の写  
真はポストカードとして販売もされて  
います。ファインダーに納められた人  
々のやわらかい笑顔が印象的です。

「自然の中に暮らす人の営みに興味があ  
ります」(榊氏談)。

## 都会の人を魅了する 田舎暮らし

今回の現場研修では『田舎の不便さ  
を、楽しめる都会人』の存在を教えて  
もらいました。

そういえば、「夏は暑いのが、冬は寒い  
の、雪が降るわ、草は生えるわ…」と、  
大自然に不平不満を言っていた、私…。  
反省です。

風を取り入れ、薪ストーブで暖をと  
る。暮らしは工夫次第ですね。田舎の  
いいところ、発信しましょう。



記念撮影「はいニャ〜ゴ」榊氏(右から5人目)と参加者一同

# 〈商家の家訓の話 第七回〉 近江大店の後継者の養成

末永 國紀



外村与左衛門家業祖使用の行商着  
(近江商人博物館「外村与左衛門展」)

資産を築いた近江の大店では、家業の永続が大きな問題であった。そのために後継者をいかに育てるか、ということが重要になった。娘に有能な子飼いの奉公人をあてがう場合もあったが、それは後継者に人を得ないときであり、通常は息子が後継者の第一候補であった。それだけに、将来は大店の当主となる子弟の教育については、家訓でも明文化されていた。

京都に本店があり、南部盛岡に出店のあった小野善助家の享保一三年（一七二八）に制定された家訓の「覚」でも、男子の商業訓練についての一項を設けている。

この家にて出生つかまつり候男子、十五歳になり候は、南部店に差し下し、手代同前に使い、商い仕習わせ、二十四五までも差し置き申さるべく候、成長つかまつり候時分、京に差し置き、世上の奢りを見習わせ悪性者になり候こと、不便に候あいだ、必ず南部へ差し下し、大方心入りもよくなり候節、呼び上せ申さるべく候



小野家に生まれた男子は全員、一五歳になったら、奥州の南部店に派遣して、奉公人の手代と同じように商いを見習わせ、二四〜二五歳になるまで修行させるといふ取り決めである。青少年期にむざむざ繁華な京都にとどめておいては、奢りの気風を見習い、性悪者になるだけであるから、必ず南部店で一〇年余を過ごさせ、誰の目にも心にかなう人間に成長してから京都に呼び戻すことに決められている。

また、安政三年（一八五六）の外村与左衛門家の「作法記」は、主人の悴を小野家の場合よりもっと早く商い修行に出し、その後、当主に納まるまでの行程を次のように定めている。

拾貳歳より店へ出、平の子同様に見習い致すべきこと、早く出し候えば、当人は悪いのほか苦勞に思い申さず、これより家族いよいよ尊敬いたすべく、かつ家族の勤め方を思いやり、人の善惡を察する基なり

拾六歳元服 これより若旦那と申すべきこと、家督までは勤番役の下につけ、格式は例頭、別宅の間なり

武拾五才 家督、これより本主人、両親隠居いたすべきこと、但し後見

主人の息子は、一二歳になったら出店に配属し、普通の子供と同様に見習い修行をさせることになっている。その理由を、年少の頃から店に出れば、本人は修行をそれほど辛く感じないからである。また、少年の時期から苦勞を身にかけて育つので、思いやりや人物の善惡を見分ける眼力が着くというのである。一六歳で元服して若旦那となり、席次は別宅の次の席を占めると規定されている。二五歳で主人の座に着き、両親は隠居して後見人になると決められている。若年時に苦勞することによって、当主の自覚と資格を得ると説いている。

ただ、このように幼年のときから召使同様に働かせると、本人が当主となった後、奉公人達のなかに主人を軽んじる者も出てくる恐れがある。その場合は、店をあずかる支配人や後見人が指図して矯正することを周到に定めている家訓もある（丁子屋小林吟右衛門家「示合之條目」）。

当主になった後、主人に私欲のために資産を危うくする振舞いがあれば、奉公人から弾劾をうける場合があった。山中兵右衛門家の四代目は家業に身を入れなかつたため、文政一二年（一八二九）二五歳のときに、店支配人をはじめとする奉公人一同から、改心しなければ、全員退店するという通告をうけるにいたつた。これなども、奉公人の諫言による当主の強制的訓育といえよう。

そして、店関係者一同から当主に改心の見込みなしと判断されれば、当主を罷免するという押込め隠居の規定が、近江商人の家訓には盛り込まれていた。

## 近江商人に学べ

# 末永國紀

●すえながくにとし1943年生れ。

同志社大学経済学部教授。経済学博士。

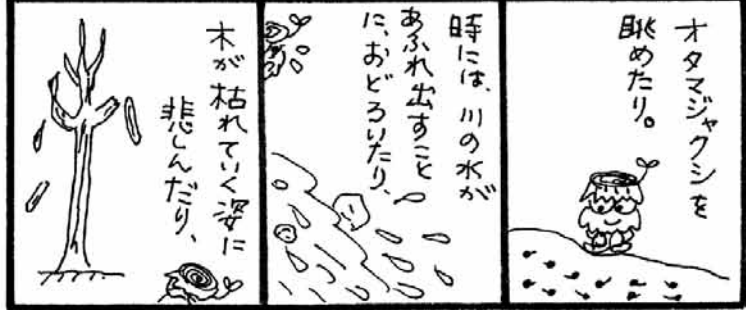
（財）近江商人郷土館館長。

著書／『近代近江商人経営史論』（有斐閣）、「近江商人」（中公新書）、「近江商人

学入門」（サンライズ出版）

# りんべえに会わないかい???

作: オミユキ



森林公園くつききの森には、ある生きものがすんでいる。

② ↑ すきまな じげ

この生きものの特徴は…

① かわいい芽

③ わらじをはいた足元

名前はりんべえ。くつききの森に昔からすんでいる。

いんべえ! こんないきものです!

はまかしがり屋なのでなかなか会えない。

鳥のヒナの巣立ちを応援したり

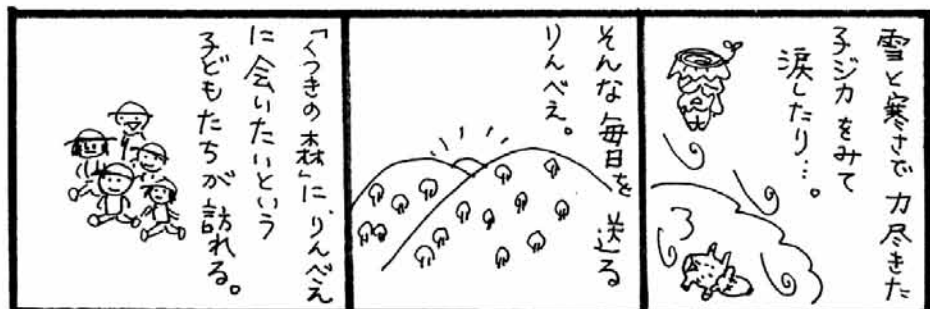
森の奥で、木の赤ちゃんがうまれることを喜んだり。

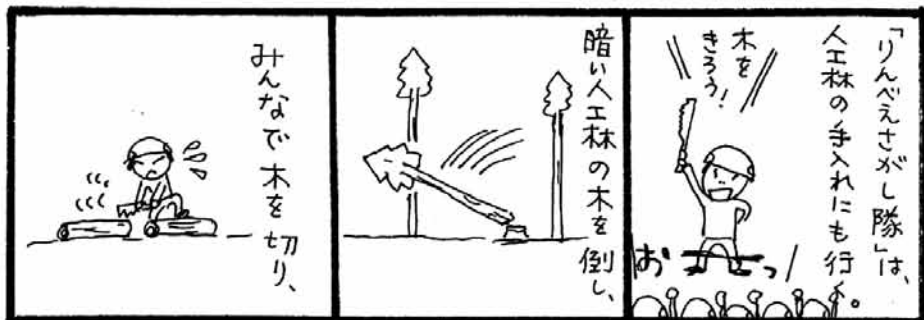
オタマジャクシを眺めたり。

木が枯れていく姿に悲しんだり、

時には、川の水があふれ出すことにおどろいたり、

オタマジャクシを眺めたり。







## 緑陰の恵み

畑 裕子



イラスト:徳永 拓美

大学生になるまで樹木や水田を渡ってくる涼風に身をさらし夏を過ごしてきたためか、密室の冷房が大の苦手である。体質が清涼な空気に馴染んでしまったといえは聞こえはよいが、要するに田舎者なのだろう。

が、今や、私の故郷でもクーラーのない家は少ない。憂うべきことだが、田舎も都市なみに温暖化の影響を受けているのである。

鏡山の麓にある我が家は町中と違い、幾分涼しいはずだが、団地の住人との今夏の挨拶言葉は「毎日、暑くてたまりませんね」「クーラーをつけなくてはやってられませんわ」。こんな会話の繰り返しである。

とはいえ、私は我慢の限界まで冷房のスイッチを入れない。理由は先に記した通りである。一人の時はそれでもよいが、来客の場合はどうはいかない。

また外出先での冷房の強さには閉口してしまふ。持参のうわっぱを取りだし、はおるがそれでも落ち着かない。そのうち鼻水さえ出てくるという始末である。

こんな状態を何度か繰り返しているうちに、ついにこの夏も早々と夏バテでダウンしてしまった。今年こそは夏バテおさらばだ、と注意に注意をしていた矢先のことである。掛かり付けの医師から処方された強い抗生物質の薬を恨めしく見つめながら飲み込んだ。今まではこの薬剤は最後の手段として渡されていたのだが、最近弱めの抗生物質では効能が悪くなってきたのだ。恐ろしいことである。

床に伏しながら我が家の小さな庭を眺めた。いつのまにか植木溜めのようになってしまった。引越してきた頃は金木犀が生垣として植えられていただけの庭。その庭に小学生だった子ども遊び場として芝生を植えた。ところが小さな庭はすぐに見離され、遊び場は近くの山河に移っていった。やがて捨てられていた犬が住人となり、庭

の芝生はたちどころに消えていった。

オオデマリ、モクレン、ツバキ、アマリカハナミズキ、ウメ、サルスベリ、グミ…。元々植えられていた槇などの常緑樹を除くと花を咲かせる落葉樹がほとんどである。花の好きな私はいつのまにか花の咲く木ばかりを植えていたのだ。さらに鳥が恵んでくれた山椒や枇杷の木なども遠慮がちに庭の一員となっている。

転居から二十五年めの今年は今ままで一番過ごしがたい夏といえるだろう。それでも私は揺れるカーテン越しにひそやかな緑の風に触れるのが好きである。風に触れながら病の特権ともいつてよいとりとめのない思いの中に身を置く。窓という窓が開け放たれたふるさとの田舎家。奥座敷で大の字になって昼寝する私、その傍らでは同じく猫が人間のようにお腹をたして大の字に。そんな光景を甦らせながら苦笑する。寝そべる部屋は小さくなってしまったが、人間のように傍らで眠る猫の姿は今も変わらないからだ。猫は寒暖を察知する名人でもある。

どの木で束の間の生を謳歌しているのだろうか。アブラゼミが先ほどから鳴いている。日差しがピークとなったためか、緑陰の風は弱まった。代わって扇風機の出番である。もうしばらく我慢しよう。そうすれば葉陰を縫って風がそよいでくるだろう。温度計は三十二度を指している。

「三十二度くらいなら私でもクーラーつけずに我慢する。京都の暑さはその程度ではないのだから」

知人は言う。やはり庭の緑陰の恵みであるうか。

「でもあなたのお家は緑がいっぱいなのだから胸を張ってクーラーをつけてもいいのじゃないかしら。炭酸ガスをその何倍も吸収してくれているのですもの」

さらに知人は言った。

「これがドイツ人ならどうだろう。即座に計算して地球温暖化阻止にこれだけ貢献していると言うかもしれない。いやいやサギ小屋ならぬ犬小屋の庭ではたいした成果は期待できないだろうとも」

二カ月前くドイツ人家庭で過ごし、そのエロ感覚に否が応でも付き合わざるを得なかった私。その反動のように帰国してまず欲しかったことは、たっぷりのお湯に首までつかり、溢れ出るお湯の音に目を細めることだった。

## 徳永拓美

(畑さんのプロフィールは50ページで紹介しています。)

● > < ながひろみ 1949年生まれ。日本画を学び、日春展、京展、新興展、滋賀県展に入選を経て挿絵も描く。「いぶきのやさぶろう」(京都新聞社)「守山の野鳥ガイドブック」(守山市立教育研究所)、「甲賀のむかし話し」(サンライズ出版)、「イルカをおそった黒い波」(汐文社)など。レイカディア大学「手作り紙芝居講座」講師。

# ひっぴりだこの 「もったいないばあさん」

今関 信子



(真珠まりこ著・講談社)

「もったいないばあさん」に、会いたいな。」

おばあさんには四年前に会っている。くるりと丸めた髪を、頭のてっぺんにかんざしで留め、鼻の頭まで落ちた丸めがねで、子どもたちをじろりと見る。もんに割烹着、寒さよけに首にスカーフという出で立ちの個性派だ。このころ人氣が沸騰していると聞いて、再会したくなったのだ。

日曜日の図書館は混んでいた。相談やら質問やらも入って、カウンターは大忙しだ。

「もったいないばあさんは、ありますか?」と尋ねると、すべて貸し出し中とのこと。コンピュータを操作して、「予約が続いていますね」と、司書が申し訳なさそうな顔をした。

それでは……、とインターネットで購入する。表紙の中で、ばあさんは健在だった。

作者の真珠まりこさんは、当時四歳だった息子さんに「もったいないになってべつ



いう意味？」ときかれ、ひとごとで答  
えられなかったことがきっかけで、こ  
の絵本を作ったと言いつつ。

とびらに「もったいないばあさんが  
くるよ」とある。この一行は、ちよっ  
と声を落として、落ち着いて読む方が  
いいにちがいない。

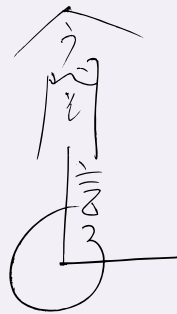
茶碗に飯粒をぐっつけて食事を終え  
ると、ばあさんはぐこからともなく現  
れる。そして、「もったいない、もった  
いない」と、飯粒を拾って食い、飯粒の  
付いた顔をなめ回す。水を出しっぱな  
しにしていると、ばあさんはすごい剣  
幕で、「コップはびびでたりるだろ。も  
ったいないことするんじゃないー」と  
がなりたてる。ぼくが泣き出すと「おや  
おや、なみだがもったいないな」と言っ  
始末。どなるばかりかと言えはそうで  
はなく、ちびた色鉛筆はテープでひと  
くへりして、虹色鉛筆を作ってみせる。  
日が暮れて、真っ暗闇の家に戻ったも  
ったいないばあさん。「暗いときには  
寝るんだよ」と、布団に潜り込んだ。

「この本を読んでもらう子どもたちは、  
ちよっと恐いかんじを面白がっているほ  
すだ。子どもたちには当たり前前の行為  
に、ばあさんはもの申す。「もったいな  
い」を連発する。ぐこからともなく現  
れるばあさんは、恐い。迫力そのもの  
で「もったいない」とがなりたてられ  
るのも、恐い。けれど、ばあさんは捨  
てる物で楽しい物を作りだす。そんな  
ばあさんは恐いけれど親しみも感じる  
のだろう。」

「この本を読んでもらう子どもたちは、  
幼いはずだ。親たちは、「今どきの親  
は……」とか「最近、お母さんが変  
まりました」などと言われている若い  
親たちだ。彼らもまた、伝統が育んだ  
暮らしになじまない生活感覚を身に付  
けているのではないだろうか。その若  
い人たちが、この本を手にとって、幼  
い子どもたちに読み聞かせるのだ。」

「若い人たちを信頼している。」  
私はずれしくなっている。  
ちよっくと恐くて、ちよっくと気持ち悪

い感じは、子どももの感覚に残ってい  
たろう。そして、「もったいない」の  
精神は、受け継がれていくに違いない。



●いませきのぶこ1942年東京生  
まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園  
教諭となる。7年間保育者として働いた  
後、創作活動にはいる。日本児童文学者  
協会理事。

〈主な著書〉「小犬の裁判はじめます」1  
987年 青少社 青少年読書感想文コンク  
ール課題図書。「さよならの日のねずみ  
花火」1995年 国土社 青少年読書感  
想文コンクール課題図書、厚生省中央  
児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の  
村で」1997年 国土社 2000年 P.H.P  
研究所 など多数

# 講演日記

皆様のご支援でたくさんの講演依頼を頂きました。7月～10月の講演をダイジェスト版でお知らせします。

- 長浜ロータリー定例会  
日時：7月28日  
主催：長浜ロータリークラブ  
演題：持続可能型社会を形成するには  
会場：北びわこホテル グラッチェ
- 参加：30名  
講師：森建司
- 安全と改善の取り組み  
日時：7月31日  
主催：株式会社ユーハイム  
目的：eプラザ見学と研修  
会場：新江州(株)
- 参加：16名  
講師：中尾義則

- 環境活動について研修  
日時：8月1日  
主催：滋賀県湖北地域振興局  
目的：環境面の取り組みを見学  
会場：新江州(株)eプラザ  
参加：15名  
案内人：辻村琴美
- 新近江商人塾  
日時：8月11日  
主催：北近江中小企業演題：もったいないの志から現代の経営課題に取り組みには  
会場：長浜ドーム宿泊研修館
- 参加：30名  
講師：森建司
- 関西商業教育研究大会 滋賀大会  
日時：8月20日  
主催：関西商業教育研究大会滋賀大会事務局  
演題：持続可能型社会に向けた人材育成  
会場：ピアザ淡海  
参加：200名

- 講師：森建司
- 東浅井郡教育講演  
日時：8月28日  
主催：東浅井郡教育委員会  
演題：転換力  
会場：湖北町役場  
参加：40名  
講師：森建司
- 琵琶湖紀伊国屋塾  
日時：9月13日  
主催：ブルーベリーフィールズ紀伊国屋  
演題：限界を超えた経済行為は人を幸せにしたか  
会場：紀伊国屋 結
- 参加：40名  
講師：森建司
- もったいない学会 シンポジウム  
日時：9月19日  
主催：もったいない学会  
演題：石油ピーク後の課題と対策をEPRから考える  
会場：東京大学 山上会館

- 参加：90名  
司会：辻村琴美  
たかしまからチャレンジ  
日時：9月21日  
主催：「高島市民活動屋台村2008」実行委員会事務局  
目的：MOH通信出版  
担当：辻村琴美
- 元気な企業の温故知新を探る  
日時：9月24日  
主催：山城経営研究所  
目的：見学とインタビュ  
会場：新江州(株)eプラザ  
参加：7名  
講師：森建司、大塚良彦
- eプラザ視察  
日時：9月25日  
主催：滋賀県教育支援センター  
目的：eプラザ視察  
会場：新江州(株)eプラザ  
参加：2名  
案内人：辻村琴美

- 執筆者懇談会13  
日時：9月26日  
主催：MOH通信  
演題：22号と23号について  
会場：山科 安兵衛  
参加：15名
- 秋の夜長を楽しむタベ  
日時：9月27日  
主催：麻生里山センター  
演題：ハッピーな森の未来をめざして  
会場：高島市くつき山根館
- 参加：60名  
講師：今関信子、中村美重、森建司
- サステイナブル経営研究会定例会  
日時：10月2日  
主催：サステイナブル経営研究会  
演題：地域に自立する中小企業  
会場：勤労者会館臨湖  
参加：30名  
講師：弘中史子

## 【藻で軽油 年80トン】

トヨタ自動車グループの部品メーカー、デンソーは、水中で光を浴びると軽油を生成する藻を大量に培養し13年までに軽油の量産に乗り出す。藻を原料とする軽油の増産は初。

## 【朽木中の学校林の杉切り出し体育館建設】

高島市朽木市場の市立朽木小学校(児童数107人)と、隣接する市立朽木中学校(生徒数65人)の体育館の老朽化に伴い、同中学の学校林を使った小中共用の体育館を建設。同市朽木荒川の学校林で切り出された。8月21日

## 【滋賀県内最大 トチの木見つかる】

高島市朽木平良の山林でトチの原木が見つかった。周囲5.8m、高さ25m、樹齢400年とみられる。高島市の宝として環境教育や体験学習に活用。8月21日

## 【21世紀に生かす日本文化は循環や放浪「よし」とする世界観】

日本の基層文化は縄文文化で、アイヌ文化に強く残されている。明治時代以降から近代思想を取り入れ日本の文化は終戦で否定された。今は無思想の状態。縄文の世界観を持つ日本人は自己の思想に自信をもっていい。

「縄文に帰れ」。哲学者梅原猛氏と分子生物学者福岡伸一氏クロストーク。10月6日  
=朝日新聞=

## 【街から減る「魚屋さん」】

スーパーに客を奪われ20年で半減。日本の食文化に影響も。8月18日

## 【少ない水でマイクロ発電】

わずかな水で発電し、環境にやさしい「マイクロ水力発電」の見学会が8月10日大津市北比良の実験場で行われた。同水力発電はびわこ成蹊スポーツ大(同市)の青木豊明教授らが開発。中古の乗用車用発電機を利用し単身家庭の生活分の電力がまかなえる。8月11日

## 【自然エネルギー100%のエコトイレ】

山陽道の龍野西SAに12月登場。太陽光発電システム、LED照明、節電洗浄便座。西日本高速道路が運営する山陽道自動車道。龍野西サービスエリア(兵庫県龍野市)で高速道路初「エコトイレ」。8月28日

## 【太陽光を大型船動力に】

日本郵船は新日本石油と共同で太陽光発電を推進動力用電力に活用した自動車運搬船を開発すると発表した。大型船舶の動力関係に太陽光発電を生かすのは世界初。8月27日

## 【屋上農業視界良好】

立命館大生ビジネス化探る。水菜や大根、京都の学校などで栽培。びわこくさつキャンパス(草津市)を拠点に活動している学生団体「PNCI屋上農業事業部」。大学から起業家支援奨励金を受け今春事業開始。ハツカダイコンは大学内の「Tawawa二条店」で提供される。

## 【空き町家活用策探る】

近江八幡市で空き町家の活用と町並み保存を模索する機運が高まる。宿泊体験を企画したのは大阪大の大学院生ら、丁稚ようかんや赤こんにゃくをつくる地元職人との座談会も。9月20日  
=京都新聞=

こんな商品ありました!



- ★ モ〜カフェ  
グリコとサークルKサンクスの共同開発商品。コーヒーマルク、200ml
- ★ MOW  
森永乳業のアイスクリーム。ミルクバニラとミルクエスプレッソ。

# 湖北時雨

三山 元暎



さし絵：中川 善雄

晩秋から初冬にかけてのこの季節、昔ほどではないが、湖北時雨に見舞われる。これは、大陸から季節風が吹き、日本海から水蒸気をもたらうとともに、下から暖められて対流を起し、たくさん積雲や積乱雲が風に流されてやってくるからである。

すると、雲の一つ一つが通るたびに、空が暗くなって冷たい雨が降り、閑寂な趣がしたかと思うと、先ほどの雨が嘘のように陽がさして、赤や黄に染まった里山がうるんで見える。こんな有様が一日に何回も繰り返される。

この時期、今でこそ稲の収穫期が早まったことや機械化で見られないが、私らが子どもの頃は、脱穀した粃が農家の庭先のむしろに干されていた。

干粃に櫛の落葉柿落葉 俳小室

このように自然の美しさが見られた一方、さあっと秋時雨が来て、家族総出ですばやくむしろをたたむ光景をしばしば見かけた。

晩秋の秋時雨がやがて時雨となり、

陽の光が白っぽく見えてくると師走。ツツブキの花が消えてなくなり、ヤツデの花が散りはじめると伊吹のお山は冬化粧。師走の日々は、もうまっしぐらに冬至へと向かう。  
初冬の句を二つ。

八つ手咲く隣や人の住みかはり

千穂

茶の花や故郷家継ぐ人無かり

麦子

## 三山 元暎

●みやま もとあき 1940年滋賀県坂田郡山東町(現・米原市)生まれ。長浜市の理事・経済部長を経て1995年8月から2005年2月まで山東町長。同月14日米原市誕生にともない退任。真宗大谷派真勝寺住職。

●なかがわ よしお 1936年生まれ。滋賀県展、長浜市展、伊吹を描く絵画展など入賞、入選歴多数あり。税理士。

# 本の紹介

最近入手した、気になる本・CD・DVDをご紹介します。

BOOKS

## 生活様式の経済理論



- 著者／成瀬龍夫
- 発行／お茶の水書房
- 価格／2800円
- 内容／現代資本主義の生産・労働・生活過程を分析した研究書。資本主義の限界を緻密に分析する。

## 知ったかぶりカイツプリのCD



- 歌手／藤井組びわ湖放送
- 発行／知ったかぶりカイツプリ製作委員会
- 価格／19800円
- 内容／知ったかぶりのカイツプリが♪草津は温泉とちやうでえ、と歌う「ぼく知ってるもん」。ツラツラルと話す「野洲のおっさんカイツプリ」など。わらえる。「滋賀ツツマン」のDVD付き。

## 「もったいない!」をくらいつのなか!



- 著者／三原啓子
- 発行／文理閣
- 価格／14000円十税
- 内容／元京都市職員で保健衛生・環境衛生に従事した作者がつづる、主婦にできることを視点にしたエッセー。

## 環境カレンダー2009

- 著者／高月紘
- 発行／日本環境保護国際交流会

流会

- 価格／9000円
- 内容／「私」のものからみんなのものへ」がテーマ。かわいしい十二支が「もう一度使おう」と話しかける。月の満ち欠けもわかる。



- 問い合わせ／高月紘  
higmoon@sikawap.jp  
0076(627)7518

## もったいないばあさんと考えよう世界のこと



- 著者／真珠まりこ
- 発行／講談社
- 価格／10000円十税
- 内容／「もったいない!」っていつことは、命を大切にすること。うことなんじゃよ。と、もったいないばあさんは世界のことを話してくれる。

## 現代に生きる三方よし



- 編集／AKI-NDDO会議
- 発行／AKI-NDDO委員会
- 内容／近江商人の共通理念「観が厳しく問われる今、「世間よし」を実践して欲しい。真のビジネスモデルの教科書。

## DVD 淡海と生きる〜琵琶湖〜



- 製作・著作／WFFジャパン
- 制作／リバーリバイバル研究所
- 内容／母なる淡海・琵琶湖。太古から続く生命の営みは今も人々の生活とともにある。美しい映像で世界に訴える。

# 「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する、こころとか思いを取り戻さなければならない。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために

「循環型社会を目指す～MOH通信～」を発行する。

## 《 MOH通信概要 》

### ■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

### ■事業

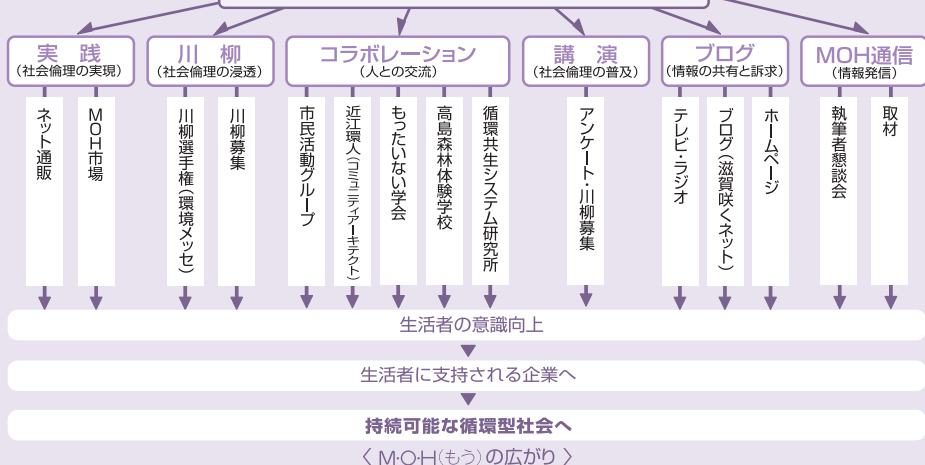
- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

### ■事務局

〒526-0111  
滋賀県長浜市  
川道町759-3  
循環型社会システム研究所  
TEL.0749-72-5277  
FAX.0749-72-8681  
e-mail:tsujimura@shingoshu.co.jp  
代表:森 建司  
担当:辻村 琴美

## [ M・O・Hコンセプトシート ]

M・O・H＝循環型社会をめざす言葉  
(もったいない・おかげさま・ほどほどに)



## 読者の声

- ★「ふなずしツアー」に興味津々。生物たちが健全に生きられているか…。こういう日常の中で識っていきたいと思います。  
西本 椰枝 (西宮)
- ★滋賀県の環境事情や今後必要となる事を学ばせていただきたいと思います。  
杉野 澄子 (彦根)
- ★MOH通信が沖繩に上陸を果たされた事と、立派なお仕事をされている方々と同じ誌面に記事にしてください。沖繩では「うないフェスティバル」が開催されます。  
和宇慶ミツ子 (沖繩)
- ★PHOTOがすてきでした。  
岸田 京子 (京都)
- ★「沖繩の女性」のたくましさ素晴らしいですね。「非電化」が普及できたら良くなるでしょうね。「野

- 良師さん」「漁師さん」若い方もいて心強いと思いました。  
徳永 拓美 (守山)
- ★「人間の学」を読むと、子どもを比べている、大人目線を叱つたりしている自分を反省します。じっくりとお話を聞きたいなあ。  
前田 由香 (伊香)
- ★「ふなずしツアー」に興味を持ちました。滋賀の生まれ育ちでありながら、匂いに負けて食べたことがあります。お正月は挑戦します。  
越中 茂雄 (長浜)
- ★掲載写真を見るたびに、自然の素晴らしさを感じます。  
宇治原 一哉 (長浜)
- ★「沖繩の企業」で掲載されていた屋上緑化にとっても興味を持ちました。会社の屋根に緑があふれ、植物や昆虫が生息し、地球温暖化対策につながれば嬉しい。  
宮川 倫彩子 (長浜)

## お知らせ

### 新米がとれたよおお!

米原市伊吹の伊吹家<sup>いぶきけ</sup>では、コシヒカリの新米を販売しています。販売するのは伊吹家のしんまい、長男の憲吾君です。5キログラム2000円。

●お問い合わせ／080-5313-1227  
mail:ajizajxrq@za.ztv.ne.jp

- ★環境問題や輸入に頼った食生活問題に関心があります。衣食住や昔生活の良いところ、おばあちゃんの知恵袋、節約、子育て、女性視点の記事も入れてください。  
湯本 幸子 (長浜)
- ★「源氏物語」が環境問題と普遍でつながった鼎談、お話の様子が見えるようでした。日々の生活に考え方の大切さを思いました。  
青根 知美 (長浜)

## 《次号予告》

2009年2月末発行予定

### ■特集:変革

- 対談／「生き方、死に方…」  
滋賀医科大学・吉川元学長+森建司
- 寄稿／技術「真に地球にやさしい技術とは」内藤正明
- 寄稿／社会「新しい社会システム」  
大阪産業大学教授 花田眞理子
- 取材／長屋「もったいないプロジェクト」空堀発
- 取材／音楽「したかぶりかいつぶり」
- 取材／東門院「門前ふれあい交流推進プロジェクト」
- 取材／「びわこ環境ビジネスメッセに牛登場」
- 連載／通常通り

※ 敬称略、予告なく変更いたします

## 編集後記

### ★嬉しい出来事★

小誌20号でご紹介した、滋賀県を代表する風景画家のブライアン・ウィリアムズ先生から、水彩画「真野モーニング。」(175mm×275mm)を頂戴しました。MOH通信に敬意を表していただいたこと、大変に光栄に存じます。美しい画面は次号の表紙に仕立てて皆様にお届けいたします。ウィリアムズ先生ありがとうございました。ご協力いただいた皆様ありがとうございます。

こと

# 《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。活動やこの通信について、ご意見もお聞かせください。

電話番号、fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、あなたの心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

あなたのお名前、年齢、郵便番号、住所、電

## 《M・O・H通信》申込書

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住所	〒		
電話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、MOH川柳をお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

## M・O・H通信 Vol.22 (通巻23号) 2008年11月末日発行 発行部数5,000部

### ●編集・発行/新江州(株)

循環型社会システム研究所  
M・O・H通信編集局

代表 森 建司

編集長 つじむら ことみ

編集協力 稲垣 重雄

取材 細井 美保

古田 紀子

坂本 由貴枝

デザイン 伊達デザイン室

写真 辻村写真事務所

奥田 珠貴

印刷 新江州(株)情報C

ブログ 松崎 和弘

ホームページ 寺川 智美

### ●執筆者懇談会

内藤 正明

海東 英和

山田 朝夫

下西 康嗣

末永 國紀

花田 真理子

弘中 史子

今関 信子

山崎 隆

三山 元暎

加藤 みゆき

清水 安治

檀上 俊雄

中田エリカ

堀 和樹

畑 裕子

堤 幸一

進 ひろこ

中村 誠

笹山 千伶

奥山 武生

結城 美枝子

松崎 和弘

井上 昌幸

辻村 耕司

佐々木 洋一

徳永 拓美

中井 二三雄

山口 美知子

(順不同・敬称略)

### ●ご協力

滋賀県

琵琶湖環境科学研究

センター

高島市

循環共生社会S研究所

高島森林体験学校

麻生里山センター

近江環人&環人会

もったいない学会

野洲生活学校

EEネット

中小企業家同友会

(順不同)

### ●支援

新江州(株)

〒526-0111 滋賀県長浜市川道759-3

TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

★ブログ 滋賀・咲くブログ★

<http://moh.shiga-saku.net/>

★ホームページ★

<http://www.mohmoh.jp/>

※記事中での写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。